



Face Tracker Ver.2.0



ユーザーガイド

目次

1. はじめに	1
1.1. 本書について	1
2. Face Tracker の構成	2
2.1. 基本構成について	2
3. 各画面の名称	4
3.1. ライブ表示画面	4
3.2. 顔認証履歴画面	4
3.3. 顔検知履歴画面	5
3.4. 登録された個人データの編集画面	5
3.5. レコーダー再生画面	6
4. Face Tracker を起動する	7
4.1. ログイン	7
4.2. メイン画面	8
5. カメラを接続する	9
5.1. Web カメラを接続する	9
5.2. IP カメラを接続する	10
5.3. 動画を使用する	11
5.4. スキップフレームについて	11
5.5. カメラ名を変更する	12
5.6. カメラを切断する	12
6. 個人データを登録する	13
6.1. 動画ファイルから登録する	13
6.2. 画像ファイルから個人データを登録する	15
6.3. 顔検知履歴から個人データを登録する	17
6.4. 新規に個人データを登録する	18
6.5. 既に登録されている個人データに顔を追加する	19
6.6. 顔登録のヒント	20

7. 顔認証履歴を確認する	21
7.1. ライブ表示画面で認証結果を確認する	21
7.2. ライブ表示画面から認証情報詳細を保存する	23
7.3. 顔認証履歴画面で過去の顔認証結果を確認する	24
7.4. 顔認証履歴リストを保存する	24
8. Face Tracker の通知機能	26
8.1. 音声通知機能	26
8.2. メール通知機能	26
8.3. 端末通知機能	26
8.4. 外部出力機能	26
9. 顔検知履歴を確認する	27
9.1. 検知履歴を表示する	27
9.2. 検知履歴の詳細情報を保存する	29
9.3. 顔検知履歴リストを保存する	30
9.4. 検知履歴から顔を登録する	30
9.5. 検知履歴から類似した顔を探す	30
10. 登録データを編集する	32
10.1. 個人データの編集	32
10.2. 個人データの削除	33
11. レコーダー連携を行う	34
11.1. 再生画面を起動する	34
11.2. 再生画面を操作する	35
11.3. レコーダーの映像を保存する	36
12. その他の機能	37
12.1. 検知範囲を設定する	37
12.2. カメラ画像を分割表示、シングル表示を切り替える	37
12.3. 解像度・FPS を表示する	38
12.4. ピクセルガイド機能を使う	38
12.5. 映像を一時停止する	38
12.6. 保存データの自動削除機能	39
12.7. 類似度アイコンのカラー変更機能	39
12.8. 自動ログイン機能	39
12.9. 未登録者通知機能	39

13.	登録されているデータの管理をする	40
13.1.	データをエクスポートする	40
13.2.	データをインポートする	42
13.3.	種別を管理する	43
13.4.	カスタム項目を管理する	45
14.	アカウント権限について	47
15.	検知・認証について	48
15.1.	認証の仕組み	48
15.2.	検知・認証状態について	48
15.3.	検知条件について	49
15.4.	類似度の目安	49
15.5.	未登録者の検知について	49
16.	各種設定と確認画面	50
16.1.	認証の設定	50
16.2.	自動保存の設定	52
16.3.	保存/表示期間の設定	53
16.4.	データベースの設定	54
16.5.	通知音の設定	55
16.6.	端末通知の設定	56
16.7.	メール通知の設定	58
16.8.	類似度アイコンの設定	60
16.9.	外部出力の設定	61
16.10.	レコーダー連携の設定	63
16.11.	カメラ表示の設定	66
16.12.	マスター接続の設定	66
16.13.	アカウントの設定	67
16.14.	ライセンス情報	69
16.15.	バージョン情報	69

1 はじめに

1.1. 本書について

本書は、当社製品「Face Tracker」の使用方法について記載するものです。

※本ユーザーガイドについては、将来予告なしに変更することがあります。

※製品改良のため、予告なく仕様の一部を変更することがあります。

※本ユーザーガイドの一部または全部を無断で複製することは、個人利用を除き禁止されております。また、無断転載は固くお断りします。

※本ユーザーガイドに記載されているアプリケーション、画像、及び説明は、実際の製品と多少異なる場合があります。

2. Face Tracker の構成

2.1. 基本構成について

本製品は Face Tracker（顔認証システム）、Face Tracker Terminal（端末アプリケーション）、Face Tracker Master（集中管理アプリケーション）の3つのアプリケーションで構成されます。

また、データベースとして Microsoft SQL Server を使用します。

以下のようにシステムを構成します。

* Face Tracker Master は 2020 年内に一般リリースを予定しております。



Face Tracker（顔認証アプリケーション）：

カメラからの入力に対し顔の照合を行い、登録された顔と一致した場合に認証履歴を保存します。

また端末アプリケーションや集中管理アプリケーションへの通知、外部機器への信号出力、登録データの編集などを行います。

Face Tracker Terminal（端末アプリケーション）：

Face Tracker がインストールされた PC と同一 LAN 環境にある機器にインストールして使用します。

Face Tracker と通信を行い、認証情報の通知をリアルタイムで受け取ることが可能です。

現在、Android OS 端末のみ対応しております。

Face Tracker Master（集中管理アプリケーション）：

複数拠点に設置された Face Tracker から認証情報通知の受け取り、登録データの管理、そして集中管理アプリケーションで作成した登録データの同期を行います。また認証情報や登録データの集中管理を行う際に使用します。各拠点の Face Tracker の認証結果を確認、管理したい場合にお勧めです。

データベース：

Face Tracker、および Face Tracker Master での認証情報の管理に使用します。

レコーダー：

IP カメラで撮影した映像の保存が可能です。レコーダー連携機能を使用し、Face Tracker からレコーダーに保存された映像の確認が可能です。

連携が可能なレコーダーは IDIS 製品の 4 チャンネル、又は 16 チャンネルのネットワークレコーダーです。

*レコーダーは Face Tracker システムパッケージには含まれておりません。

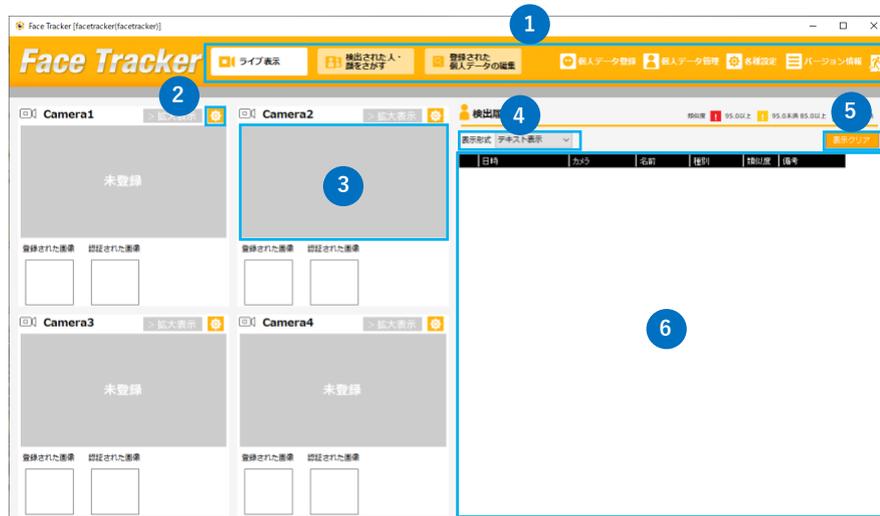
本書では Face Tracker の使用方法のみ記載をしております。

端末アプリケーション「Face Tracker Terminal」は別紙のユーザーガイドをご参照ください。

3 各種画面の名称

3.1 ライブ表示画面

トップメニューバーから「ライブ表示」を選択します。



①	トップメニューバー	②	設定ボタン	③	カメラビューア
④	表示形式選択メニュー	⑤	表示クリアボタン	⑥	履歴リスト

3.2 顔認証履歴画面

トップメニューバーから“検出された人・顔をさがす”を選択し、“顔認証履歴”タブを選択します。
顔認証履歴画面が表示されます。



①	保存ボタン	②	レコーダー再生ボタン	③	前・次のデータボタン	④	検索条件変更欄
⑤	読み出しボタン	⑥	表示形式選択メニュー	⑦	リスト保存ボタン	⑧	履歴リスト

3.3 顔検知履歴画面

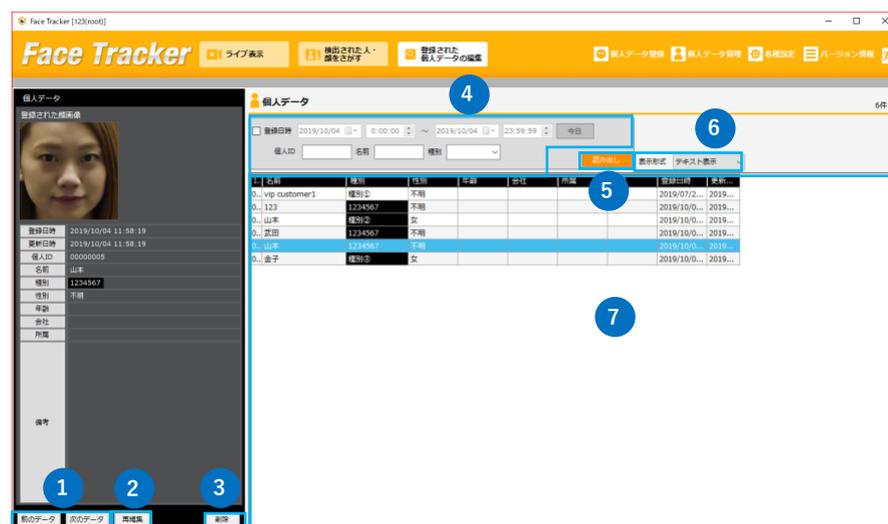
トップメニューバーから“検出された人・顔をさがす”を選択し、“顔検知履歴”タブを選択します。顔検知履歴画面が表示されます。



①	保存ボタン	②	レコーダー再生ボタン	③	前・次のデータボタン	④	新規登録ボタン
⑤	追加登録ボタン	⑥	類似検索ボタン	⑦	検索条件変更欄	⑧	読み出しボタン
⑨	表示順変更欄	⑩	表示形式選択メニュー	⑪	リスト保存ボタン	⑫	拡大表示切り替え チェックボックス
⑬	履歴リスト						

3.4 登録された個人データの編集画面

トップメニューバーから“登録された個人データの編集”を選択します。登録された個人データの編集画面が表示されます。



①	前・次のデータボタン	②	再編集ボタン	③	削除ボタン	④	検索条件変更欄
⑤	読み出しボタン	⑥	表示形式選択メニュー	⑦	登録データリスト		

3.5 レコーダー再生画面

各画面から“レコーダー再生”ボタンを押下すると、レコーダー再生画面が表示されます。



①	分割表示ボタン	②	カメラ切り替えボタン	③	日付選択ボックス	④	再生/停止ボタン
⑤	再生速度変更バー	⑥	閉じるボタン	⑦	再生位置移動ボタン	⑧	日時選択ボックス
⑨	動画保存ボタン	⑩	タイムバー	⑪	レコーダー映像表示部		

4 Face Tracker を起動する

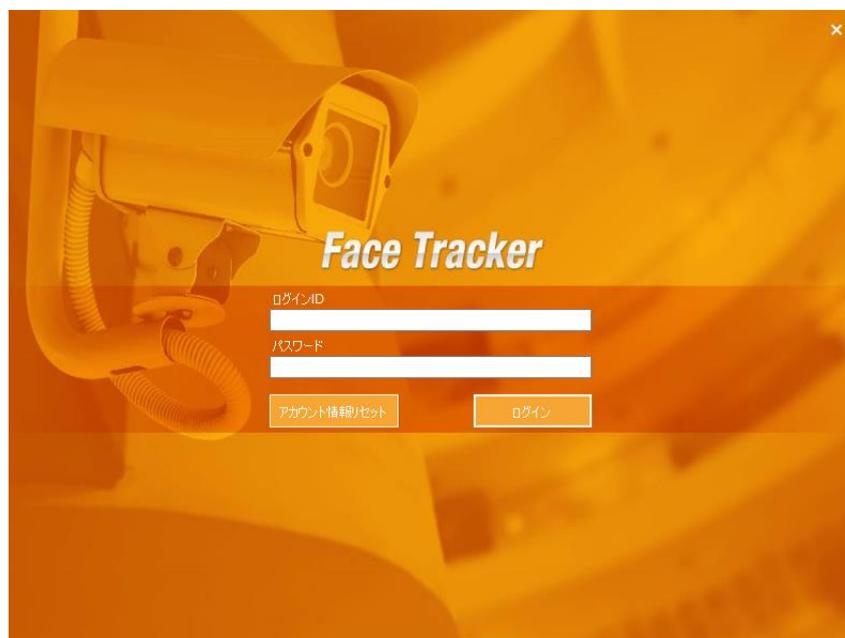
Face Tracker は出荷初期設定の状態では、PC の電源を入れ Windows を起動すると自動的に起動します。セキュリティ上、管理者アカウントにての自動起動を回避したい場合、一般ユーザーによる自動起動や、自動起動をオフにすることが可能です。

手動で Face Tracker を起動する場合、デスクトップ上のショートカットアイコンをダブルクリックし起動します。



4.2 ログイン

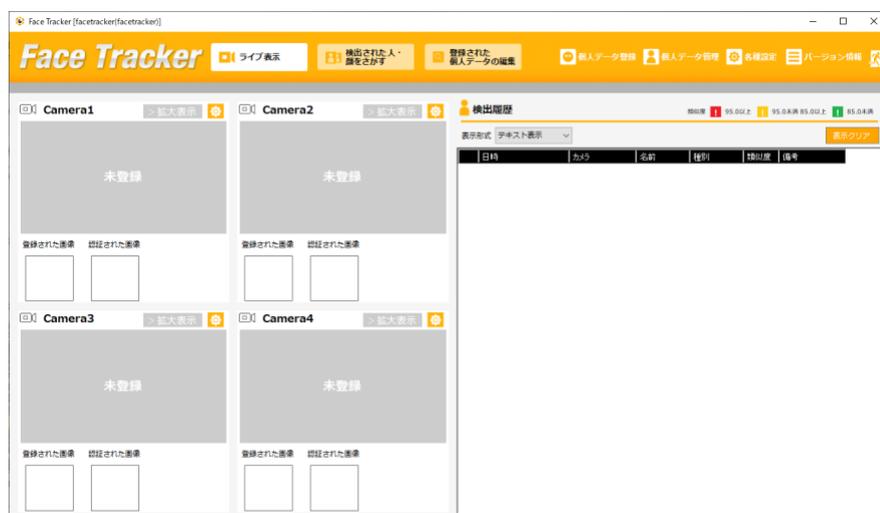
初期設定の状態では自動でログインされるため、ログイン画面は表示されません。“各種設定”にて自動ログインをオフにし、アプリケーションを起動した時、またはログアウトした時には以下のログイン画面が表示されます。



“各種設定”にて自動ログインの設定を行った場合、次回の起動時はログイン無しで起動されます。自動ログイン機能については、「0. 12.8 自動ログイン機能」をご参照ください。

4.2 メイン画面

Face Tracker が起動すると、ライブ表示画面が表示されます。



注：一般アカウントでログインした場合、一部の機能が制限されます。
詳しくは「0.14 アカウント権限について」をご参照ください。

5 カメラを接続する

Face Tracker では Web カメラ、IP カメラを使用することが可能です。また、動画ファイルを取り込み、再生することも可能です。

カメラを接続するには、“ライブ表示画面”にて“設定”  を押下します。表示されたメニューから“カメラ接続”を選択します。

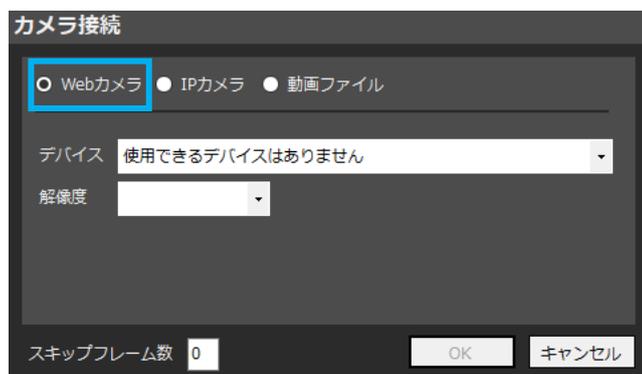


カメラ接続設定画面にてカメラの種類を選択します。

4ch ライセンスモデルの場合は最大 4 台、2ch ライセンスモデルの場合は最大 2 台のカメラ接続が可能です。

5.1 Web カメラを接続する

1 カメラ接続画面で“Web カメラ”を選択します。



2 “デバイス”にて PC に接続された Web カメラを選択します。

注：他のアプリケーションで Web カメラを使用されている場合、Face Tracker と同時に使用することは出来ません。

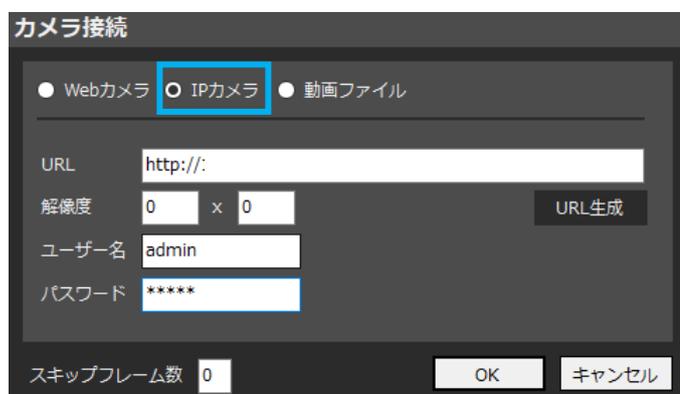
3 “解像度”にてドロップダウンリストに表示される解像度から任意のサイズを選択します。

※デバイスにより選択可能な解像度は異なります。

4 [OK] ボタンを押下し設定を完了します。

5.2 IP カメラを接続する

1 カメラ接続画面で“IP カメラ”を選択します。



カメラ接続

Webカメラ IPカメラ 動画ファイル

URL URL生成

解像度 x

ユーザー名

パスワード

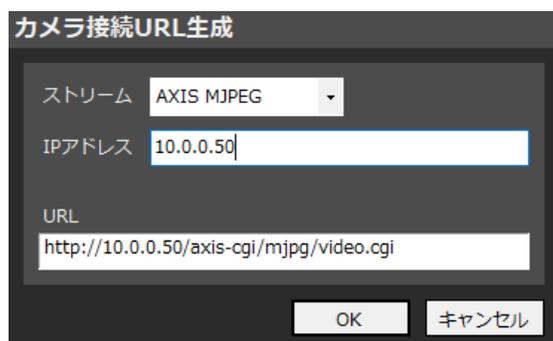
スキップフレーム数 OK キャンセル

2 “URL”に接続するカメラのストリームが取得できる URL を入力します。

ストリームが取得できる URL はカメラにより異なります。

[URL 生成]ボタンを押下します。“カメラ接続 URL 生成”画面が表示されます。

ここでは、選択したストリームを取得するための URL を自動的に生成することが可能です。



カメラ接続URL生成

ストリーム

IPアドレス

URL

OK キャンセル

3 “解像度”に接続した IP カメラの仕様範囲内の解像度を任意に入力します。(推奨は 1280x720)です。

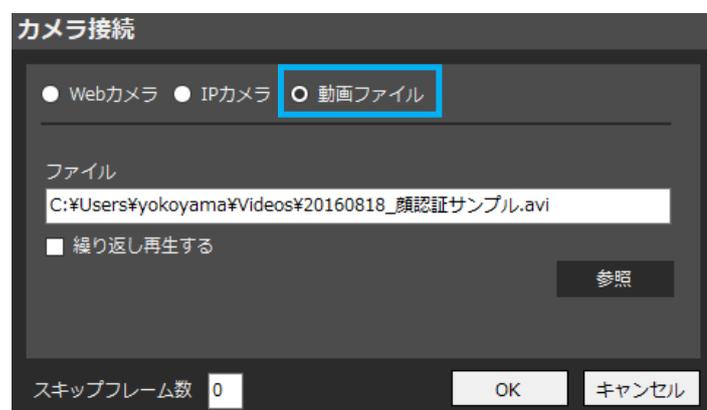
0×0 を指定した場合、IP カメラに設定されているストリームの解像度が適用されます。

4 “ユーザー名”と“パスワード”に IP カメラにて設定されたユーザー名とパスワードを入力します。

5 [OK]ボタンを押下し設定を完了します。

5.3 動画を使用する

1 カメラ接続画面にて“動画ファイル”を選択します。



2 "ファイル"に使用する動画ファイル場所のパスを入力します。

[参照]ボタンを押下し、使用する動画ファイルを任意で選択することも可能です。



動画を繰り返し再生したい場合は、“繰り返し再生する”を有効にします。

3 [OK]ボタンを押下し設定を完了します。

5.4 スキップフレームについて

ストリームに対して、スキップするフレームを指定することが可能です。CPU 負荷が大きい場合、スキップフレームを設定することで負荷を軽減することが可能です。例として、スキップフレームに<2>を指定した場合、1フレームの処理を行った後、<2>フレームの処理をスキップするため、処理を行うのは3フレーム中1フレームとなり、ストリームが30fpsだった場合の処理フレームは10fpsとなります。

※特に動作に問題がない場合は0を指定します。

5.5 カメラ名を変更する

それぞれのカメラ接続に対して、任意のカメラ名の指定が可能です。

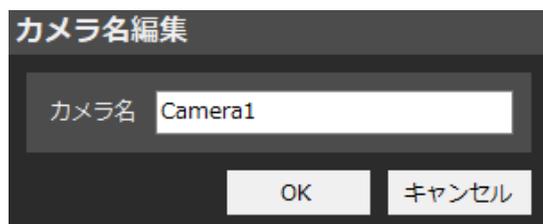
初期設定では Camera1～4 が自動で設定されています。(2CH モデルは Camera1～2 が設定されます。)

- 1 [設定]ボタン  を押下し、表示されたメニューから“カメラ名編集”を選択します。



- 2 カメラ名編集画面で任意の名前を設定し、[OK]ボタンを押下します。

※カメラ名は最大で全角／半角 20 文字まで入力可能です。



5.6 カメラ名を切断する

カメラ接続を切断するには[設定]ボタン  を押下し表示されたメニューから“カメラ切断”を選択します。



6 個人データを登録する

個人データの登録には、“動画ファイルから登録”、“画像ファイルから登録”、“検知履歴から登録”の3種類の登録方法があります。

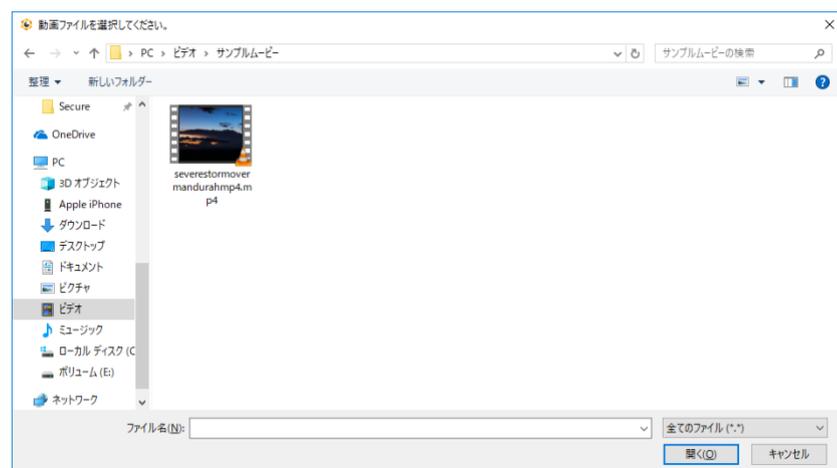
6.1 動画ファイルから登録する

動画ファイルから個人データを登録することが可能です。

- 1 トップメニューバーから、“個人データ登録”をクリックし、表示されたメニューから“動画ファイルから登録”を選択します。



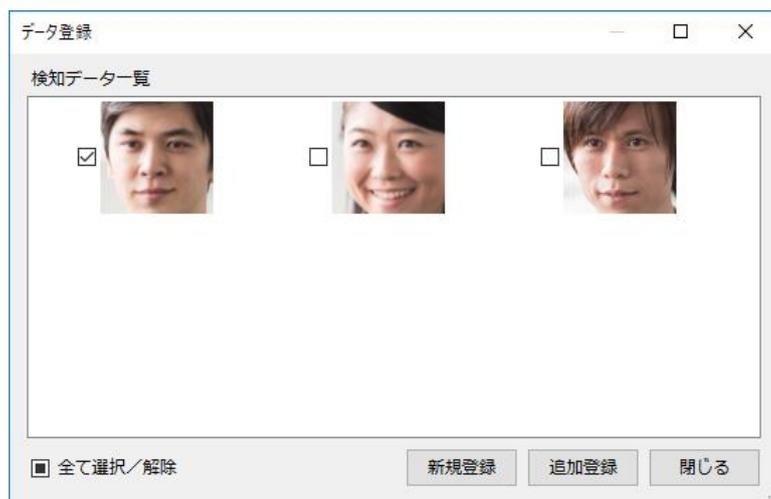
- 2 ファイル選択ダイアログにて、任意の動画ファイルを選択し[開く]ボタンを押下します。



- 3 顔が検出された状態で [登録] ボタンを押下します。
(再生中の登録が難しい場合は、一時停止した状態で行います。)



- 4 検出した顔の一覧が表示されます。登録したい顔を選択し、新規に顔を登録する場合は[新規登録]ボタン、既に登録されている個人データに顔を追加する場合は[追加登録]ボタンを押下します。



新規登録を行う場合は、「0. 6.4 新規に個人データを登録する」をご参照ください。

登録データに顔を追加する場合は、「0. 6.5 既に登録されている個人データに顔を追加する」をご参照ください。

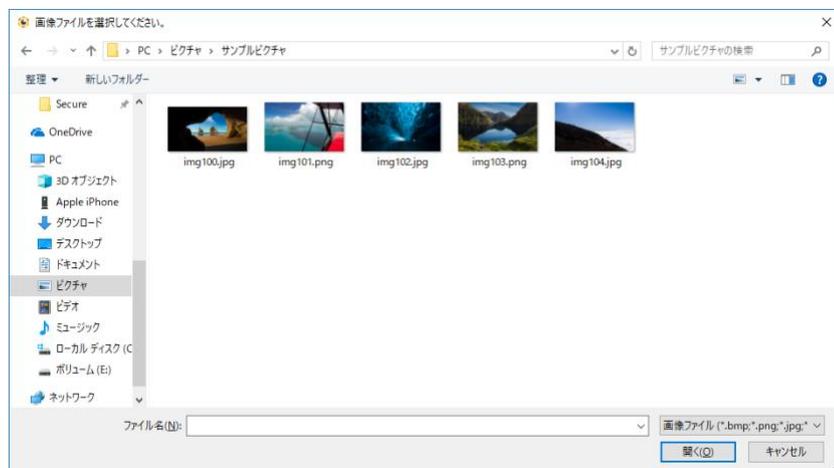
6.2 画像ファイルから個人データを登録する

画像ファイルを使用し個人データを登録することが可能です。

- 1 トップメニューバーから、“個人データ登録”を選択します。表示されたメニューから“画像ファイルから登録”を選択します。



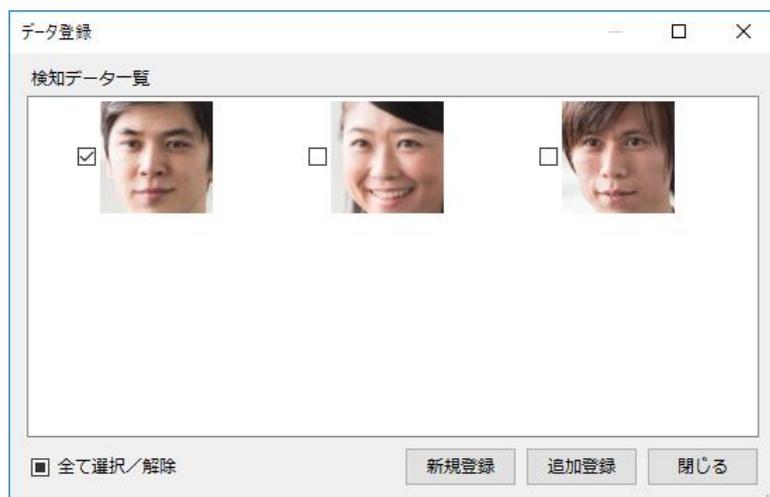
- 2 ファイル選択ダイアログにて、任意の画像ファイルを選択し[開く]ボタンを押下します。



3 顔が検出された状態で[登録]ボタンを押下します。



4 検出した顔の一覧が表示されます。登録したい顔を選択し、新規に顔を登録する場合は[新規登録]ボタン、既に登録されている登録データに顔を追加する場合は[追加登録]ボタンを押下します。



新規登録を行う場合は、「0. 6.4 新規に個人データを登録する」をご参照ください。

登録データに顔を追加する場合は、「0. 6.5 既に登録されている個人データに顔を追加する」をご参照ください。

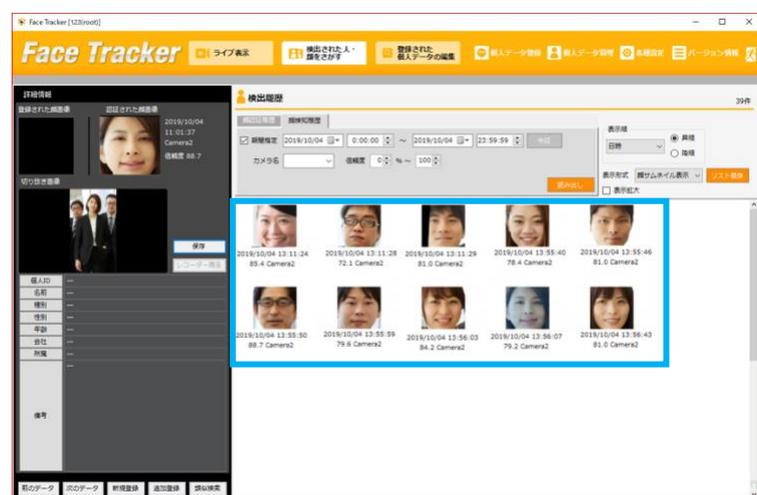
6.3 顔検知履歴から個人データを登録する

顔検知履歴リストのデータから個人データを登録することが可能です。

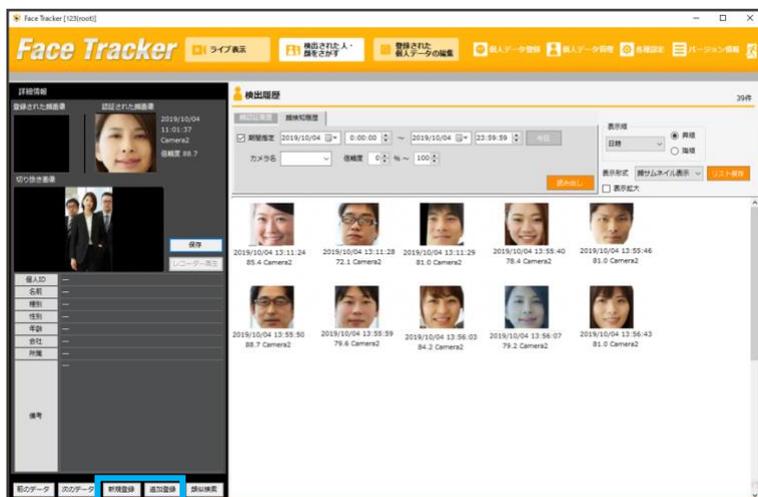
- 1 トップメニューバーから、“個人データ登録”を選択します。表示されたメニューから“顔検知履歴から登録”を選択します。



- 2 顔検知履歴画面で読み出し条件を指定し、[読み出し]ボタンを押下すると検知した顔のリストが表示されます。



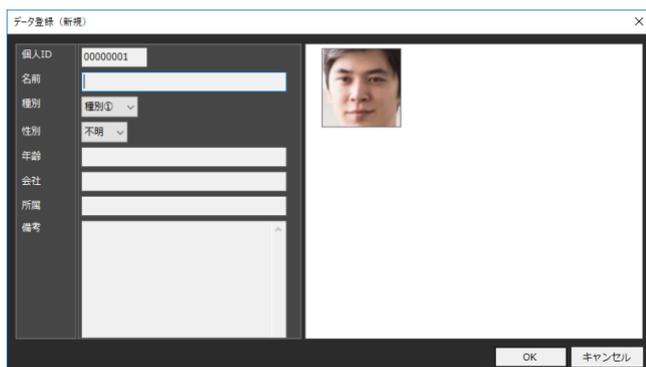
- 3 登録したい顔を選択します。新規に顔を登録する場合は[新規登録]ボタン、既に登録されている登録データに顔を追加する場合は[追加登録]ボタンを押下します。または登録したい顔を右クリックし、表示されたメニューから“新規登録”または“追加登録”を選択します。



新規登録を行う場合は、「0. 6.4 新規に個人データを登録する」をご参照ください。登録データに顔を追加する場合は、「0. 6.5 既に登録されている個人データに顔を追加する」をご参照ください。登録する顔の選び方については、「0. 6.6 顔登録のヒント」をご参照ください。

6.4 新規に個人データを登録する

- 1 各画面で[新規登録]ボタンを押下します。以下の”データ登録”画面が開きます。



- 2 個人データを入力し、[OK]ボタンを押下し登録が完了します。
IDは自動で採番されますが、任意なIDへ変更することも可能です。
既に登録済みのIDは重複して使用することはできません。
個人データの詳細については、「0. 10 登録データを編集する」をご参照ください。

6.5 既に登録されている個人データに顔を追加する

- 1 各画面で[追加登録]ボタンを押下します。以下の”個人データ一覧”画面が開きます。
目的のデータが見つからない場合、条件を指定しデータを絞り込むことができます。

個人ID	名前	種別	性別	年齢	会社	所属	備考	更新日時	
1	00000001	山田	種別①	男	36	セキュア	所属	備考	2019/12/04 16:52:1

- 2 顔を追加する登録データを選択し[OK]ボタンを押下します。以下の”データ登録”画面が開きます。
データを確認し[OK]ボタンを押下し登録が完了します。このとき個人情報を変更することも可能です。

6.6 顔登録のヒント

顔の登録を行う際に以下の点に注意すると、認証の精度とレスポンスが向上します。

- なるべく正面を向いた顔を選択します。
横向きの顔を登録すると認証精度が落ちる場合があります。なるべくカメラの方を向いている顔を登録することをお勧めします。また検知履歴から登録する場合は信頼度 90 以上を目安に顔を選択します。
- あまりサイズの小さな顔は適していません。
あまりサイズの小さな顔を登録すると、認証の精度が落ちる場合があります。70×70 ピクセル以上を目安に顔を選択します。
- 出来るだけ鮮明な顔画像を選択します。
ピントの甘い顔やブレが出ている顔を登録すると、認証の精度が落ちる場合があります。出来るだけ鮮明に映った顔を選択します。
- 上向き／下向きの顔を追加で登録します。
認証精度は上下方向の変化に影響されます。上向き・正面・下向きの3種類の顔を登録すると、認証結果のパフォーマンスが上がります。

7 顔認証履歴を確認する

顔認証が確定、又は未登録者として判定する際、「ライブ表示画面」、又は「顔認証履歴画面」にて認証結果を表示します。また端末アプリケーション(Face Tracker Terminal)、及び集中管理アプリケーション(Face Tracker Master)で認証結果を受け取るためには、認証結果を通知、受信するように設定を行う必要があります。設定方法については「0.16.6 端末通知の設定」、及び「0.16.12 マスター接続の設定」をご参照ください。
*Face Tracker Master は 2020 年にリリース予定です。

7.1 ライブ表示画面で認証結果を確認する

ライブ表示画面では認証結果が「検出履歴」に表示されます。



カメラビューア画面:の下に認証結果として、登録された顔画像と映像上で検出された顔画像が表示されます。
登録された画像(比較画像):個人データとして登録済みの顔画像が表示されます。
認証された画像(認証画像):リアルタイムの映像内にて、検出または認証された顔画像が表示されます。

カメラビューア画面下の認証結果は一定時間表示された後、自動的にクリアされます。
(時間の設定は各種設定にて変更可能です。)

「検出履歴」には認証履歴が表示されます。履歴表示は新しい順に表示されます。
過去のデータを閲覧したい場合、「顔認証履歴画面」にて期間を設定し検索し確認することが可能です。
認証履歴は表示形式の選択が可能です。“表示形式”で、テキスト表示、顔サムネイル表示、全体表示の3種類から選択できます。
履歴をクリアするには、[表示クリア]ボタンを押下します。表示されている検出履歴は全てクリアされます。

テキスト表示

表示形式 **テキスト表示** 表示内容 **登録者の認証履歴** 表示クリア

日時	カメラ	名前	種別	類似度	備考
! 2018/03/15 16:04:49	Camera1	山田	種別①	100.0	

顔サムネイル表示

表示形式 **顔サムネイル表示** 表示内容 **登録者の認証履歴** 表示クリア



2018/03/29
14:13:42
Camera1
鈴木
! 類似度:100.0%
種別①



2018/03/29
14:13:42
Camera1
山田
! 類似度:100.0%
種別①



2018/03/29
14:13:42
Camera1
田中
! 類似度:100.0%
種別①

全体表示

表示形式 **全体表示** 表示内容 **登録者の認証履歴** 表示クリア



2018/03/29
14:13:42
Camera1
鈴木
! 類似度:100.0%
種別①



2018/03/29
14:13:42
Camera1
山田
! 類似度:100.0%
種別①



2018/03/29
14:13:42
Camera1
田中
! 類似度:100.0%
種別①

検出履歴リスト内のデータを選択します。

そのデータの「詳細情報」画面が表示され、登録データの詳細を確認することができます。



The screenshot shows the 'Face Tracker' application window. On the left, there is a '登録された顔画像' (Registered Face Image) section with a photo of a woman and a list of attributes: 個人ID: 00000002, 名前: 田中, 種別: 種別①, 性別: 不詳, 年齢: , 会社: , 所属: . Below this is a '検出された顔画像' (Detected Face Image) section with a photo of the same woman, timestamp '2018/03/15 16:07:17', camera 'Camera1', and '類似度: 100.0'. On the right, the '検出履歴' (Detection History) table is visible, showing a list of detections with columns for '日時', 'カメラ', '名前', '種別', '類似度', and '備考'. The table contains three entries, with the first one highlighted in blue.

日時	カメラ	名前	種別	類似度	備考
! 2018/03/15 16:07:17	Camera1	山田	種別①	100.0	
! 2018/03/15 16:07:17	Camera1	田中	種別①	100.0	
! 2018/03/15 16:07:17	Camera1	鈴木	種別①	100.0	

「詳細情報」画面で[前のデータ]、又は[次のデータ]ボタンを押下すると、1つ前、または1つ後の認証結果データが表示されます。

「詳細情報」画面下の[保存]を押下で「詳細情報」画面を保存することができます。

詳しくは「0. 7.2 ライブ表示画面から認証情報詳細を保存する」をご参照ください。

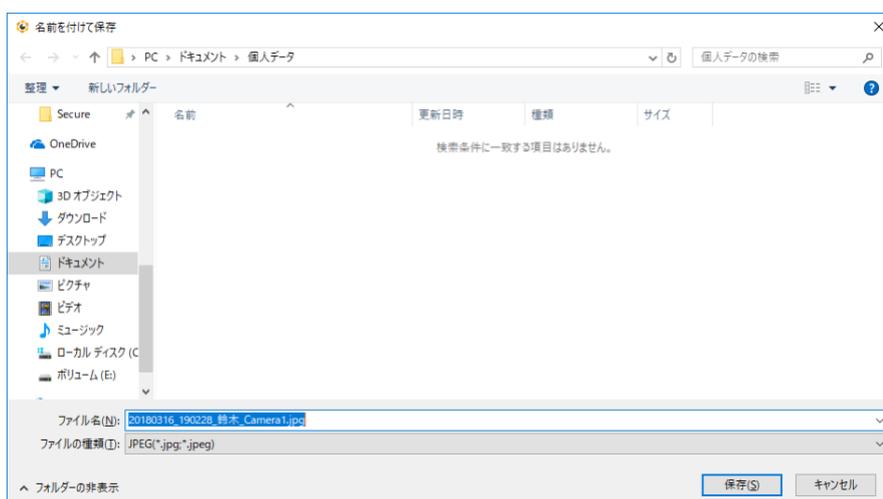
[レコーダー再生]ボタンを押下すると、認証した時刻前後の映像を閲覧することが可能です。

詳しくは「0. 11.1 再生画面を起動する」をご参照ください。

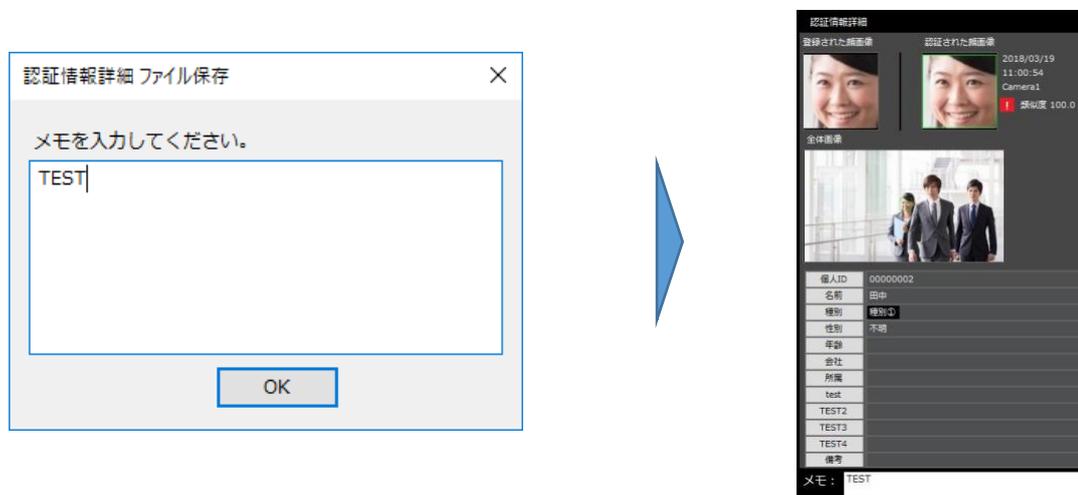
7.2 ライブ表示画面から認証情報詳細を保存する

「詳細情報」で表示された情報を画像ファイルとして保存することができます。

- 1 [保存]ボタンを押下するとファイル保存ダイアログが表示されます。以下のフォーマット形式にての保存が可能です。< JPEG、BMP、PNG >

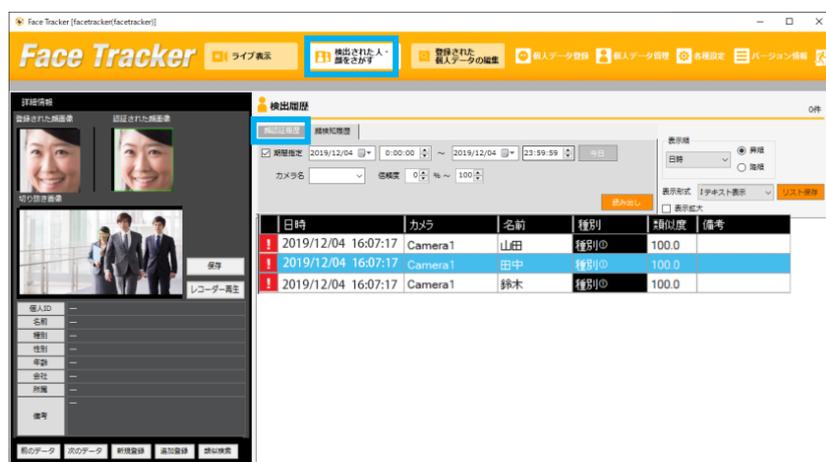


- 2 「詳細情報」画面の保存時に、任意でメモを入力することも可能です。メモを入力後、[OK] ボタンを押下します。「詳細情報」入力したメモが表示されます。



7.3 顔認証履歴画面で過去の顔認証結果を確認する

- 1 トップメニューバーから、“検出された人・顔をさがす”を選択します。
- 2 “顔認証履歴”タブを開き、条件を指定し[読み出し]ボタンを押下します。顔認証履歴が表示されます。

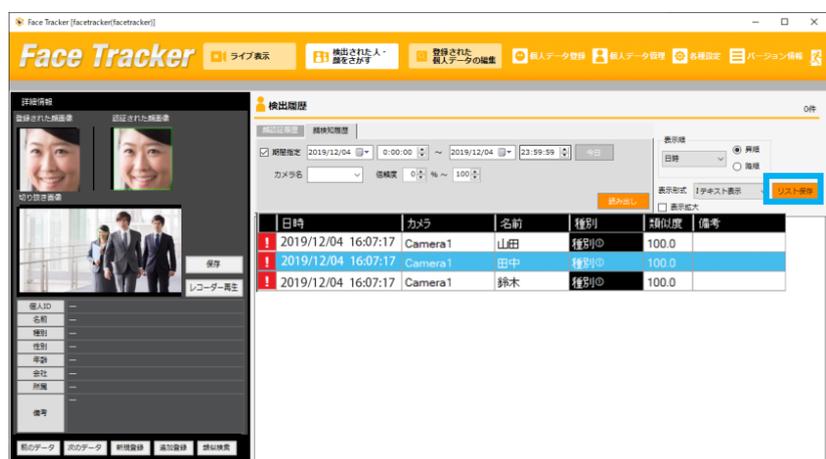


- 3 表示された認証履歴リストから任意の顔を選択し詳細情報を確認することが可能です。表示された認証履歴は、表示形式より“テキスト”を選択している場合のみ、各項目名から「昇順・降順」の切り替えが可能です。

7.4 顔認証履歴リストを保存する

“顔認証履歴”画面では顔認証履歴データは VSC として保存することが可能です。

- 1 “顔認証履歴”画面にて[リスト保存]ボタンを押下します。ファイル保存ダイアログが開きます。



- 2 CSV ファイル名を指定し、[OK]ボタンを押下すると、CSV ファイルは以下の形式で保存されます。
日時, カメラ名, ID, 類似度, 名前, 種別, 性別, 年齢, 会社, 所属, 備考, 認証画像, 登録画像, 全体画像
※その他に性別、年齢、会社、所属のカスタム項目は設定により変更可能です。
- 3 CSV ファイルと同フォルダ内に、CSV ファイル名と同名のフォルダが自動で生成されます。生成されフォルダには JPEG ファイルが保存されます。JPEG ファイル名は自動で生成され、CSV ファイル内の画像項目ファイル名が書き込まれます。

注：大量のデータを一度に保存しようとする、時間がかかる場合があります。
期間や条件を設定しデータの絞り込みを行ってから保存することをお勧めします。

8 Face Tracker の通知機能

Face Tracker では、**音声通知**、**メール通知**、**端末通知**、**外部出力装置**への出力の 4 種類の通知方法が用意されております。

8.1 音声通知機能

各種設定にて通知音を設定した場合、Face Tracker は認証または検知したタイミングで、音声による通知が可能です。通知音は種別ごとに個別の設定を行うことが可能です。

設定の詳細については、「0. 16.5 通知音の設定」をご参照ください。

8.2 メール通知機能

各種設定にてメール通知を設定した場合、Face Tracker は認証または検知したタイミングで、指定したメールアドレス宛に認証通知メールの送信を行うことが可能です。

メール通知を行う設定条件として、カメラや種別の指定が可能です。条件ごとに別々の宛先へ通知を送信することも可能です。

設定の詳細については、「0. 16.7 メール通知の設定」をご参照ください。

注：メール通知機能を使う場合には、SMTP サーバーを用意する必要があります。

8.3 端末通知機能(Face Tracker Terminal)

各種設定にて端末通知を設定した場合、Face Tracker は認証または検知したタイミングで、条件に応じて設定された端末への認証通知を行うことが可能です。端末通知を行う設定条件として、カメラ、種別の指定が可能です。

設定の詳細については、「0. 16.6 端末通知の設定」をご参照ください。

8.4 外部出力機能

各種設定にて外部出力を設定した場合、Face Tracker は認証を実行したタイミングで、外部端子へ出力することが可能です。この機能を使用することで、パトライトの回転、ドアの解錠を行ったりすることが可能です。

外部出力を行うには、専用の外部出力装置（CONTEC 社 DO-16TY-USB）が必要です。

外部出力を行う設定条件として、カメラ、種別の指定が可能です。

設定の詳細については、「0. 16.9 外部出力の設定」をご参照ください。

注：DO-16TY-USB の出力形式はリレー接点ではなく、オープンコレクタです。

オープンコレクタ非対応の製品に接続する場合は、別途リレー回路が必要です。

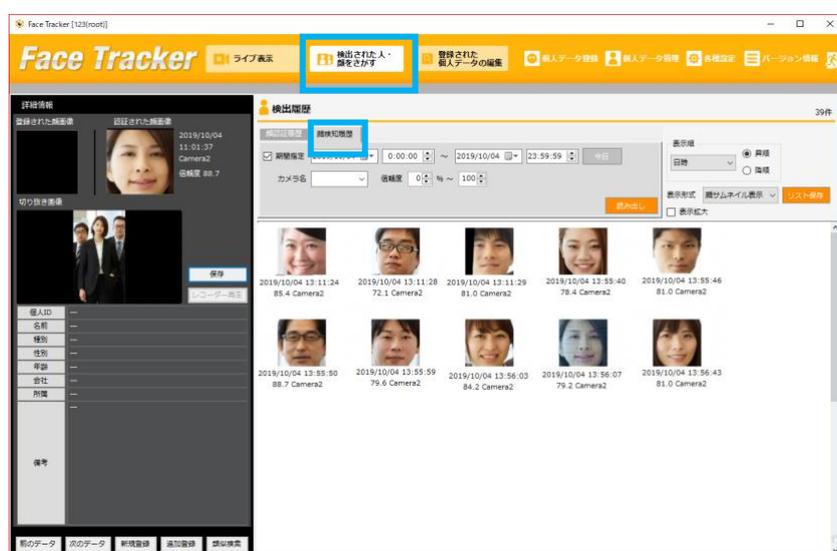
詳細は別途「DO-16TY-USB データシート」をご参照ください。

9 顔検知履歴を確認する

Face Tracker では検知した顔データを検知履歴として自動で保存します。検知履歴リストから過去の顔検索や、顔の登録、類似した顔の検索などを行うことが可能です。データの保存期間の詳細設定は、各種設定にて変更が可能です。設定の詳細は「0. 16.3 保存/表示期間の設定」をご参照ください。

9.1 検知履歴を表示する

Face Tracker で検知した顔検知履歴は、“検出された人・顔をさがす”画面上で、“顔検知履歴”タブにて確認することが可能です。



- 1 トップメニューバーから“検出された人・顔をさがす”を選択し、“顔検知履歴”タブを開きます。
- 2 顔検知履歴画面にて読み出し条件を指定し、[読み出し]ボタンを押下します。設定条件にあった検知履歴が表示されます。各サムネイルの下には、検知日時、信頼度、カメラ名が表示されます。
- 3 表示された任意のサムネイルを選択します。それぞれの“詳細情報”画面が表示されます。
[前のデータ]、[次のデータ]ボタンを押下します。一つ前のデータ、一つ後のデータが表示されます。

[保存]ボタンを押下により、“詳細情報”画面を保存することが可能です。

詳細は「09.2 検知履歴の詳細情報を保存する」をご参照ください。

[レコーダー再生]ボタンの押下により、認証した時刻前後の映像を閲覧することが可能です。

詳細は「0 再生画面を起動する」をご参照ください。

検知履歴の表示形式は、“表示形式”から「顔サムネイル表示」または「切り抜き表示」の二種類のリスト表示切替が可能です。



“表示拡大”のチェックを有効にすることで、画像の拡大表示が可能になります。



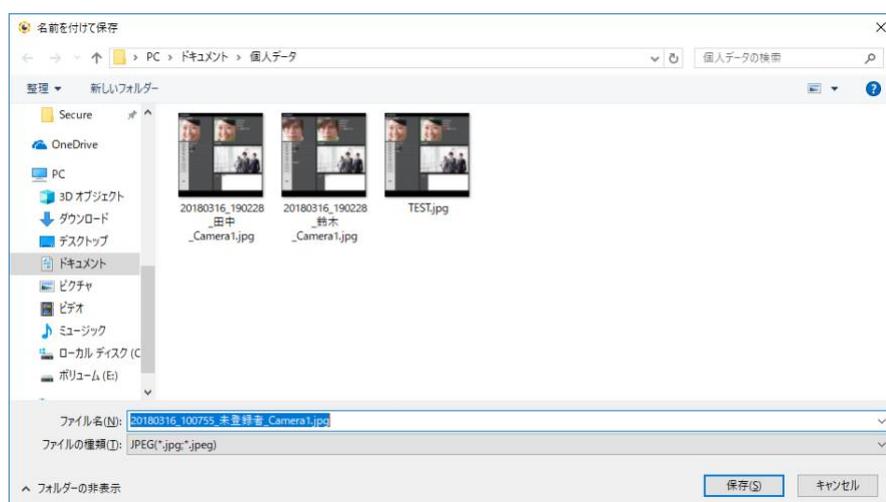
“表示順”を選択し、プルダウンメニューから、日時、カメラ名、信頼度の3種で昇順・降順を切り替えることが可能です。検知データ表示の並び替えが可能です。



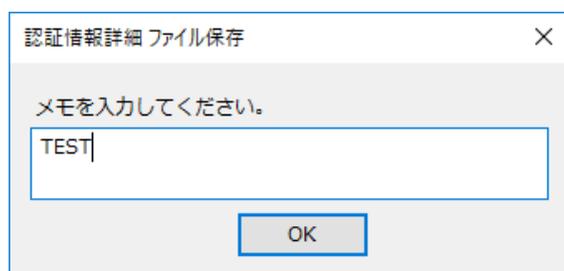
9.2 検知履歴の詳細情報を保存する

検知履歴の「詳細情報」画面に表示された情報を画像ファイルとして保存することが可能です。

- 1 [保存]ボタンを押下のより、ファイル保存ダイアログが表示されます。保存形式とファイル名を指定し[OK]ボタンを押下します。
対応フォーマットは JPEG、BMP、PNG です。



- 2 「詳細情報」画面の保存時に、任意でメモを入力することが可能です。メモ入力完了後、[OK]ボタンを押下します。「詳細情報」に記載したメモが表示されます。



9.3 顔検知履歴リストを保存する

“顔認証履歴”画面にて顔認証履歴データを保存することが可能です。

- 1 データを保存するには、“顔検知履歴”画面にて[リスト保存]ボタンを押下します。ファイル保存ダイアログが開きます。
- 2 CSV ファイル名を指定し[OK]ボタンを押下します。CSV ファイルは以下の表示項目で保存されます。
検知日時, 信頼度, 顔画像, 全身画像
- 3 CSV ファイルと同フォルダ内に、CSV ファイル名と同名のフォルダが自動で生成されます。生成されたフォルダ内に JPEG ファイルが保存されます。JPEG ファイル名は自動で生成され、CSV ファイル内の画像項目にファイル名が書き込まれます。

注：大量のデータを一度に保存しようとする、時間がかかる場合があります。期間や条件を設定し、データの絞り込みを行ってから保存することをお勧めします。

9.4 検知履歴から顔を登録する

検知履歴から顔の登録が可能です。詳細は「0.6.3 顔検知履歴から個人データを登録する」をご参照ください。

9.5 検知履歴から類似した顔を探す

選択した顔に類似した顔を顔検知履歴リストから検索することが可能です。

- 1 類似した顔をリストから検索するには、“詳細情報”の[類似検索]ボタンを押下します。または対象となるデータを右クリックし、表示されたメニューから“類似検索”を選択します。



2 “類似検索”画面が表示されます。検索条件を指定し[検索開始]ボタンを押下します。



検索結果には、**検知日時、類似度、信頼度**が表示されます。表示された検索結果から更に類似検索を行うことも可能です。

信頼度の低い顔を登録対象データに選択した場合、パフォーマンスの高い結果が得られない場合があります。信頼度 90 以上を目安に登録対象データを選択します。

[レコーダー再生]ボタンを押下すると、認証した時刻前後の映像を閲覧することが可能です。詳細は「0 再生画面を起動する」をご参照ください。

[リスト保存]ボタンを押下し、類似検索結果を保存することが可能です。ファイル保存ダイアログが表示されます。CSV ファイル名を指定して[OK]ボタンを押下します。CSV ファイルは以下の表示設定で保存されます。

検知日時, 信頼度, 顔画像, 全身画像

CSV ファイルと同じフォルダに、同名のフォルダが自動で生成されます。その中に JPEG ファイルが保存されます。JPEG ファイルのファイル名は自動で命名され、CSV ファイル内の画像項目にファイル名が書き込まれます。

大量のデータを一度に保存する場合、時間がかかる場合があります。期間や条件を設定し、データの絞り込みを行ってから保存することをお勧めします。

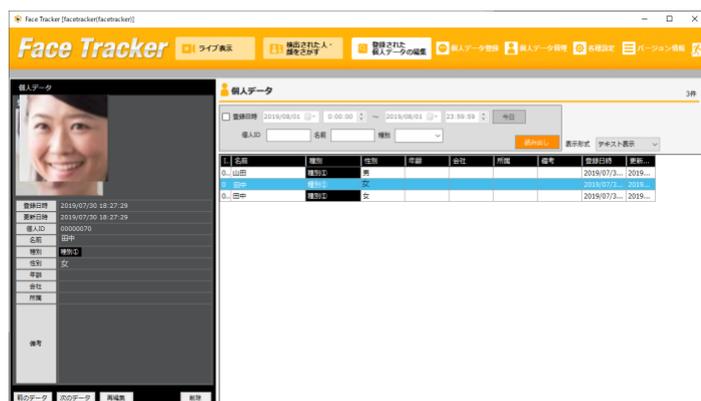
[新規登録]ボタン、または[追加登録]ボタンを押下それぞれ選択した顔データの登録が可能です。詳細は「06.4 新規に個人データを登録する」「06.5 既に登録されている個人データに顔を追加する」を、ご参照ください。

10 登録データを編集する

Face Tracker では、顔のデータに紐づく個人データを編集することが可能です。

10.1 個人データの編集

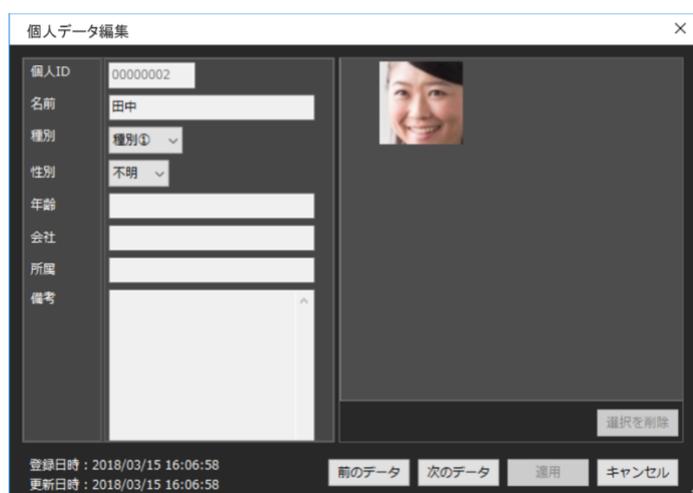
1 トップメニューバーから、「登録された個人データの編集」を選択します。



2 個人データの一覧が表示されます。

条件を指定し、表示するデータを絞り込むことも可能です。

3 個人データの一覧から編集したいデータを選択します。[再編集]ボタンを押下または、編集したいデータをダブルクリックすると、以下の画面が開きます。この画面にて個人データの編集が可能になります。既存の顔データを削除したい場合は、削除したい顔画像を選択します。[選択を削除]ボタンを押下します。
※ID を変更することはできません。



4 [適用]ボタンを押下し、編集を完了します。

編集可能な登録データの項目は以下の通りです。

ID	00000000～99999999 のまでの値が自動で採番されます。 新規登録時のみ値を変更することが可能です。 入力可能な文字数は、ASCII 文字 8 桁以下です。
名前	名前を登録します。 可能な文字数は、全角／半角 20 文字以下です。
種別	種別を登録します。 ドロップダウンメニューから選択します。
性別	性別を登録します。 ドロップダウンメニューから、女性／男性／不明の 3 種類から選択します。
年齢	年齢を登録します。 可能な文字数は、全角／半角 200 文字以下です。
会社	会社名を登録します。 可能な文字数は、全角／半角 200 文字以下です。
所属	所属名を登録します。 可能な文字数は、全角／半角 200 文字以下です。
備考	任意で登録したい項目を入力します。 可能な文字数は、全角／半角 200 文字以下です。

性別、年齢、会社、所属はカスタム項目のデフォルトで表示設定されている項目です。

カスタム項目設定から編集、または削除が可能です。詳細は「013.4 カスタム項目を管理する」をご参照ください。

1 件の登録データに対して、複数の顔を登録することが可能です。登録する顔のデータは、1 件あたり 3 枚程度までをお勧めします。(登録データが多い場合、認証結果のパフォーマンスが低下する場合があります)
また、登録できる登録データの数は 10000 件まで可能です。

10.2 個人データの削除

- 1 トップメニューバーから、「登録された個人データの編集」を選択します。
- 2 登録データの一覧が表示されます。
- 3 登録データの一覧から編集したいデータを選択し、[削除]ボタンを押下します。
- 4 個人データ削除の確認ダイアログが表示されます。[はい]を押下し、データを削除します。

11 レコーダー連携を行う

Face Tracker では、顔検知履歴、及び顔認証履歴からレコーダーに録画された映像を簡単に呼び出し、再生することが可能です。

なお、レコーダー再生機能を使用するには、弊社のレコーダーが設置されていて、レコーダー連携の設定がされている必要があります。詳細は「016.10 レコーダー連携の設定」をご参照ください。

対応しているレコーダーは IDIS 製品の 4ch、又は 16ch のレコーダーのみになります。

顔認証履歴、顔検知履歴、又は類似検索結果から、履歴に対応するレコーダー映像を再生することが可能です。以下の手順に従って再生を行ってください。

11.1 再生画面を起動する

- 1 顔認証履歴、顔検知履歴の“詳細情報”画面、又は類似検索結果の[レコーダー再生]ボタンを押下します。
- 2 レコーダー再生画面が表示され、検知時刻とカメラ名に対応するレコーダーの録画データが再生されます。

注：レコーダー連携の設定が有効になっていない場合、またはカメラ名とレコーダーCAM 番号の紐付けが設定されていない場合は [レコーダー再生] ボタンは有効になりません。

11.2 再生画面を操作する

以下のレコーダー再生画面を使用して再生を行います。



・自動再生

検知履歴、又は類似検索結果からレコーダー再生を選択します。再生画面が表示され自動的に録画データが再生されます。再生される時間の調整は“各種設定”にて変更することが可能です。

・分割表示する

[分割表示]ボタンを押下します。分割リストが表示されますので任意の分割方法を指定します。再生画面は分割表示されます。また、再生画面のダブルクリックからも分割表示へ切り替えることが可能です。

・カメラを切り替える

[カメラ切り替え]ボタンを押下します。表示したいカメラの切り替えが可能になります。

・再生する

[再生]ボタンを押下します。録画データの再生が開始します。また、再生速度変更バーを移動し、再生、逆再生、早送り、早戻しを行うことが可能です。

再生中は、[再生]ボタンは[停止]ボタンに切り替わります。[停止]ボタンを押下し再生を停止します。

・表示日時を移動する

[再生位置移動]ボタンを押下します。任意の時間前後に移動します。移動する時間は[1F]ボタンを押下することでリストが表示され、移動したい時間を指定することが可能です。

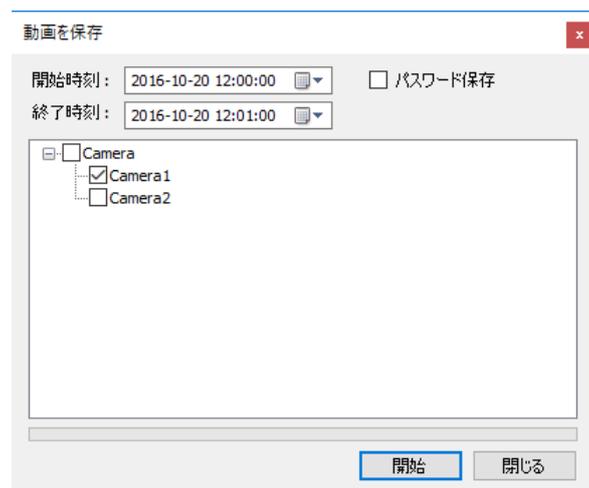
特定の日に移動したい場合、“日時選択”ボックスにて任意の日時を指定し、[移動]ボタンを押下します。指定した日時へ移動します。

特定の日に移動したい場合、“日付選択”ボックスの任意の日付を選択することで選択した日付に移動します。また、タイムバーをクリックし、赤いラインを移動することで任意の時刻への移動することも可能です。

11.3 レコーダーの映像を保存する

録画データをファイルにて保存することが可能です。ファイル形式はレコーダーの独自形式(exe ファイル)となります。ファイル形式の詳細については、レコーダーのユーザーガイド「クリッププレイ」の説明をご参照ください。

- 1 再生画面で、[動画を保存]ボタンを押下します。以下の[動画を保存画面]が表示されます。



- 2 保存したい任意の期間とカメラを指定します。
「パスワード保存」を有効にします。任意のパスワードを設定します。

- 3 [開始]ボタンを押下します。ファイル保存用のダイアログが表示されます。



- 4 任意の保存先とファイル名を指定し、[保存]ボタンを押下し保存を完了します。

12 その他の機能

12.1 検知範囲を設定する

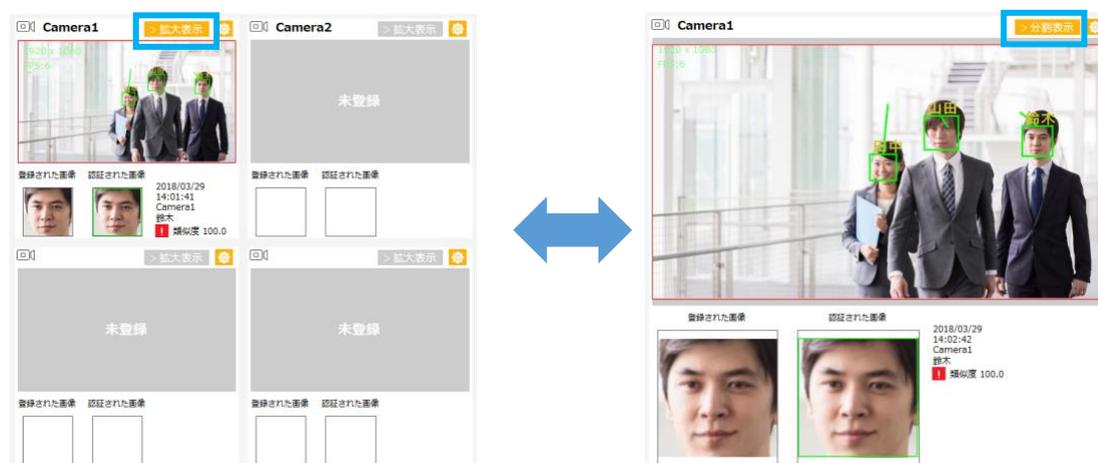
カメラの画像から顔検知を行う範囲を絞り込むことが可能です。検知範囲は赤い枠で表示されます。検出範囲を絞り込むことで CPU 負荷が軽減されます。

検知範囲を指定するには、[設定]ボタンを押下し、表示されたメニューから“検知範囲”-“全領域／範囲指定”を選択します。範囲指定を選択した場合、マウスの左ドラッグ操作で任意の範囲を指定します。



12.2 カメラ画像を分割表示、シングル表示を切り替える

分割表示されている際に、任意のカメラ画像をダブルクリックまたは、[拡大表示]ボタンを押下すると、選択したカメラ画像はシングル表示されます。再度ダブルクリックまたは、[分割表示]ボタンを押下すると、元の分割表示に戻ります。



12.3 解像度・FPS を表示する

カメラビューア上に、解像度、及びFPSを表示することが可能です。

詳細は「12.3 解像度、FPS を表示する」をご参照ください。

12.4 ピクセルガイド機能を使う

カメラ画像を確認する際、ピクセルガイド機能を使用し、画像上のピクセル数を計測することが可能です。

ピクセルガイド機能を使う場合は、[設定]ボタンを押下し、表示されたメニューから“ピクセルガイド”を選択します。マウスの左ドラッグ操作で任意の範囲のピクセル数を確認することができます。



12.5 映像を一時停止する

カメラ画像を確認中に、任意のタイミングでカメラ画像の再生を一時停止することが可能です。

一時停止機能を使う場合は、[設定]ボタンを押下し、表示されたメニューから“一時停止”を選択します。一時停止中に、再度“一時停止”を選択すると、一時停止が解除されます。



12.6 保存データの自動削除機能

“各種設定”にて設定した保存日数に達した場合、古いデータから削除する設定を選択できます。この設定により、認証履歴、検知履歴を古い履歴から自動で削除します。自動削除のタイミングは、Face Tracker の起動時と、毎日 0 時に削除されます。

認証履歴、及び検知履歴の保存日数の初期設定は「30 日」です。

自動削除機能の設定は「0. 16.2 自動保存の設定」、及び保存日数の設定は「0. 16.3 保存/表示期間の設定」をご参照ください。

12.7 類似度アイコンのカラー変更機能

類似度アイコン  は類似度のレベルを即時に判断できるように、最大、中、最小値の各種のカラーが設定されています。それぞれの背景色はカスタマイズ可能なため、任意のカラーを指定することができます。詳細は「0. 16.8 類似度アイコンの設定」をご参照ください。

12.8 自動ログイン機能

“各種設定”にて Face Tracker 自動ログインの設定が可能です。自動ログインの設定を行った場合、次回の Face Tracker の起動時に ID、パスワード入力を省略しライブ表示画面が開きます。自動ログイン機能の設定は「0. 16.13 アカウントの設定」をご参照ください。

12.9 未登録者通知機能

“各種設定”にて未登録者の検知履歴の通知の設定が可能です。

未登録者通知の設定を有効にした場合、登録された顔の認証結果だけでなく、未登録者と判定された顔の通知、及び履歴の保存を行いリストに表示します。

未登録者検知については「0. 15.5 未登録者の検知について」を、未登録者通知の設定方法については、「0. 16.1 認証の設定」をご参照ください。

13 登録されているデータの管理をする

13.1 データをエクスポートする

登録されている個人データをファイルに出力することが可能です。保存できるファイル形式は Face Tracker 独自形式 (ftpd 形式)、または CSV 形式となります。

注：CSV 形式で登録データをエクスポートした場合、顔画像はエクスポートできません。

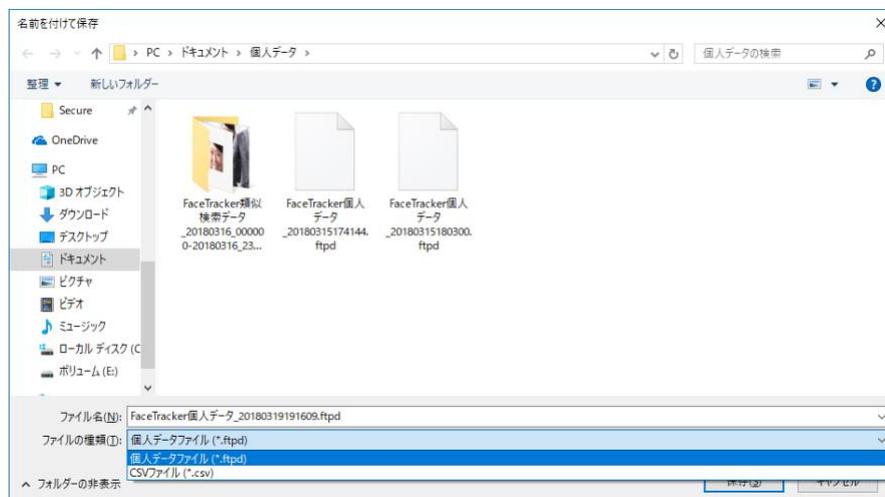
- 1 トップメニューバーから、“個人データ管理”を選択し、表示されたメニューから“エクスポート”を選択します。



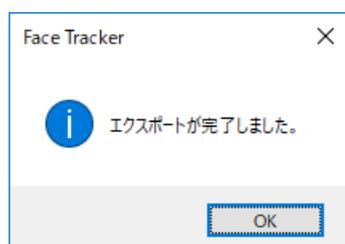
“データ選択”を選択します。以下の画面が開きます。この画面にてエクスポートするデータを選択することが可能です。



- 2 ファイル保存用のダイアログが開きます。保存する場所を指定し[保存]ボタンを押下し保存を完了します。
“ファイルの種類”はドロップダウンメニューからエクスポートする形式を選択することが可能です。



- 3 データが正しく保存完了した場合、以下の画面が表示されます。



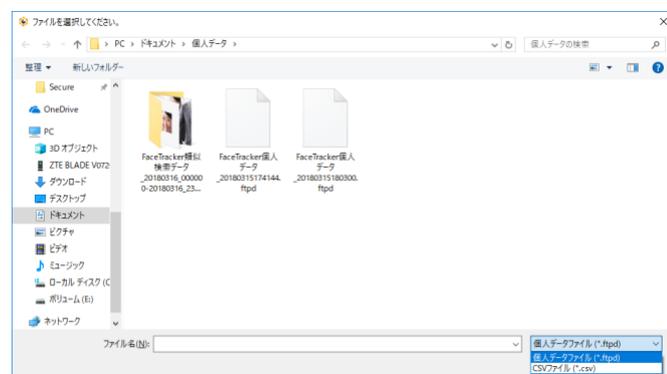
13.2 データをインポートする

ファイルに保存した Face Tracker の登録データを Face Tracker にインポートすることが可能です。

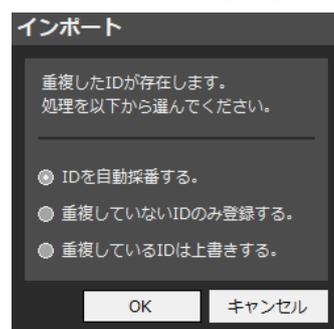
- 1 トップメニューバーから、“個人データ管理”を選択し、表示されたメニューから“インポート”を選択します。



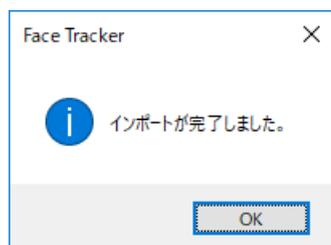
- 2 ファイル選択用のダイアログが開きます。登録データファイルを選択し[開く]ボタンを押下します。ファイル名の右のドロップダウンメニューから、インポートする形式を選択します。
注：CSV形式でインポートする場合、顔画像はインポートできません。



- 3 保存時にファイル名が重複されている場合、以下の画面が表示されます。
IDを自動採番する/重複していないIDのみ登録する/重複しているIDは上書きするから選択し、[OK]ボタンを押下し完了します。



4 データが正しく保存完了した場合、以下の画面が表示されます。



13.3 種別を管理する

個人データを分類する「種別」を編集、追加などの管理をすることが可能です。

トップメニューバーから、「個人データ管理」を選択し、表示されたメニューから「種別管理」を選択します。



・[編集]ボタンを押下します。登録されている種別の編集が可能です。[追加]ボタンを押下し、新しい種別を追加することが可能です。種別は最大 20 種類まで登録が可能です。

・[削除]ボタンを押下します。選択されている種別を削除することができます。

また、「上へ」、「下へ」ボタンを押下すると、種別の表示された順番を入れ替えることができます。



[編集]ボタン、または[追加]ボタンを押下します。“種別編集”画面が表示されます。
任意の名称を入力し、背景カラー・文字カラーを選択します。

種別編集

No.4

名称:

カラー: # 000000

文字色: # FFFFFFFF

OK キャンセル

各設定項目の内容は以下の通りです。

名称	任意で種別の名称を設定します。 名称の文字数は最大 20 文字までです。
カラー	種別の背景カラーを設定します。 テキストボックスからカラーコードを入力、またはテキストボックスの右側のカラーをクリックし、表示されたダイアログ画面からカラーを選択することで設定可能です。
文字色	種別の文字カラーを設定します。 テキストボックスからカラーコードを入力、またはテキストボックスの右側のカラーをクリックし、表示されたダイアログ画面からカラーを選択することで設定可能です。

すでに登録されている名称と同じ名称は登録できません。

13.4 カスタム項目を管理する

個人データの入力項目の編集が可能です。

- 1 トップメニューバーから、“個人データ管理”を選択し、表示されたメニューから“カスタム項目管理”を選択します。

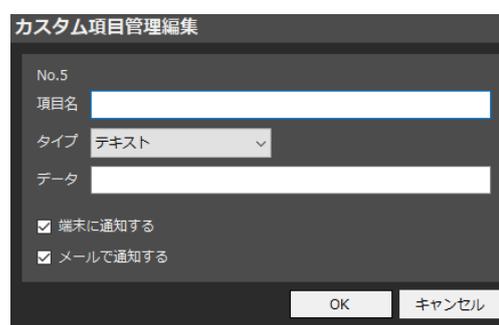


- 2 登録されているカスタム項目を編集する場合、[編集]ボタンを押下します。

新しくカスタム項目を追加するには、[追加]ボタンを押下します。

種別は最大で 10 種類まで登録が可能です。

[編集]ボタン、または[追加]ボタンを押下します。以下の”カスタム項目管理” “カスタム項目管理編” 画面が開きます。



選択されているカスタム項目を削除するには、[削除]ボタンを押下します。

また、[上へ][下へ]ボタンを押下すると、カスタム項目の表示される順番を変更することが可能です。

各設定項目の内容は以下の通りです。

項目名	性別、年齢等の詳細情報に表示される項目名を設定します。 項目名は最大で 20 文字まで入力可能です。
タイプ	テキスト形式、コンボボックス形式、チェックボックス形式、日付形式の中から入力タイプを設定します。
データ	タイプがテキスト形式の場合、個人データを登録する際に、入力される文字列を設定します。 タイプがコンボボックス形式の場合は、コンボボックスのドロップダウンリストに表示されるテキストを設定します。 タイプがチェックボックス形式の場合は、チェックボックスのタイトルを設定します。 データは全体で 200 文字まで入力可能です。 コンボボックスのデータは、「; (半角セミコロン)」区切りで入力してください。
端末に通知するチェックボックス	このチェックを外した場合、チェックを外したカスタム項目は端末に通知されません。
メールで通知するチェックボックス	このチェックを外した場合、チェックを外したカスタム項目はメールで通知されません。

14 アカウント権限について

Face Tracker で使用するアカウントの権限は、管理者と一般の2種類があります。
アカウントの作成方法については、「0. 16.13 アカウントの設定」をご参照ください。

管理者アカウントと一般アカウントの違いについては、以下の表をご参照ください。

機能	管理者アカウント	一般アカウント
ライブ映像の閲覧	○	○
顔認証履歴の閲覧	○	○
顔検知履歴の閲覧	○	○
登録データの閲覧	○	○
登録データの編集	○	○※
個人データの登録	○	×
登録データのインポート・エクスポート	○	×
種別の管理	○	×
カスタム項目の管理	○	×
各種設定の変更	○	×
カメラの接続・切断	○	×
カメラ名の編集	○	×
顔検知範囲の指定	○	×

※一般アカウントにてログインしている場合、登録データの編集は自分自身のデータのみ可能です。

15 検知・認証について

検知した顔と登録されている顔を照合し、類似度（一致率）が一定以上の場合は照合一致（認証）とし、認証情報の表示と、履歴の保存を行います。

認証判定用の類似度閾値は設定の変更が可能です。

15.1 認証の仕組み

認証判定用の類似度閾値には、下方閾値と上方閾値の2種類があります。

- ・ 下方閾値：仮認証するための閾値です。
- ・ 上方閾値：即座に認証と判定するための閾値です。
- ・ 確定時間：仮認証から確定するまでの最大時間です。

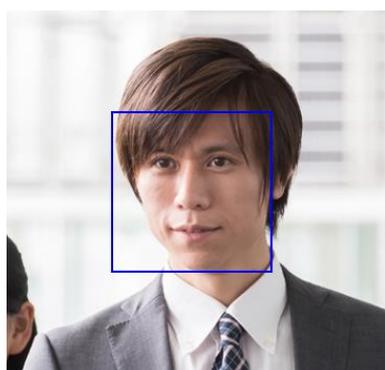
照合結果が上方閾値を超えた場合は即座に認証が確定しますが、下方閾値を超えて上方閾値を超えない場合は、仮認証として即座に認証確定せず、確定時間が経過するまで照合を繰り返します。

認証結果を即時表示したい場合、確定時間を短めに設定します。より正確な認証結果を表示したい場合は、確定時間を長めに設定します。

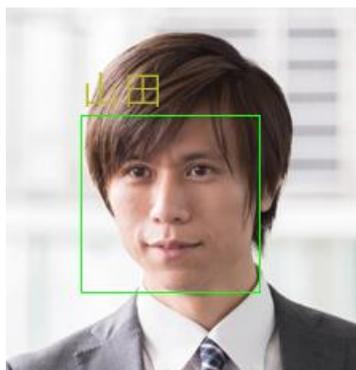
15.2 検知・認証状態について

検知・認証状態は、ライブ表示画面にて確認することができます。

顔を検知した場合、ブルーの枠で囲まれます。認証した場合はグリーンの枠で囲まれます。（仮認証中は暗いグリーン、確定した場合は明るいグリーン）枠の上部に名前が表示されます。



< 検知状態 >

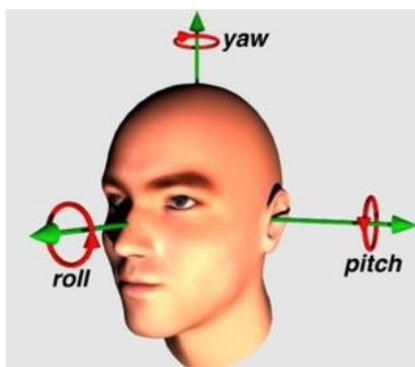


< 認証状態 >

15.3 検知条件について

映像上の顔を検知するには、以下のような条件があります。

- ・ 顔のサイズが 60×60 ピクセル以上であること。(70 ピクセル以上を推奨)
- ・ 顔の 90%以上が露出していること。
- ・ 目、鼻、口が完全に露出していること。
- ・ 顔の傾き角 (roll) が 25 度以内であること。
- ・ 顔の左右角 (yaw) が 60 度以内(左右 120 度)であること。
- ・ 顔の上下角 (pitch) が 45 度(下向き)/25 度(上向き)



15.4 類似度の目安

類似度はカメラ設置環境に大きく左右されますが、設置環境が良い場合の目安として、

- ・ 95 以上：ほぼ他人受け入れはなくなりますが、角度によって本人でも認証しない場合があります。
- ・ 90 以上：まれに他人でも認証します。
- ・ 85 以上：良く似ている人でも認証します。
- ・ 85 未満：少し似ている人でも認証します。

実際の認証結果を参考に、運用形態に合わせて設定を調整します。

15.5 未登録者の検知について

未登録者の検知を有効にすると、未登録者の通知を行います。

顔を検知した後、一定時間認証ができなかった場合、又は一定の信頼度を超えた状態で認証できなかった場合、未登録者として判定し、検知情報の表示と、履歴を保存することができます。それぞれの値の調子は設定により変更可能です。設定方法については「0. 16.1 認証の設定」をご参照ください。

未登録者として判定された場合、顔はレッドの枠で囲まれます。



16 各種設定と確認画面

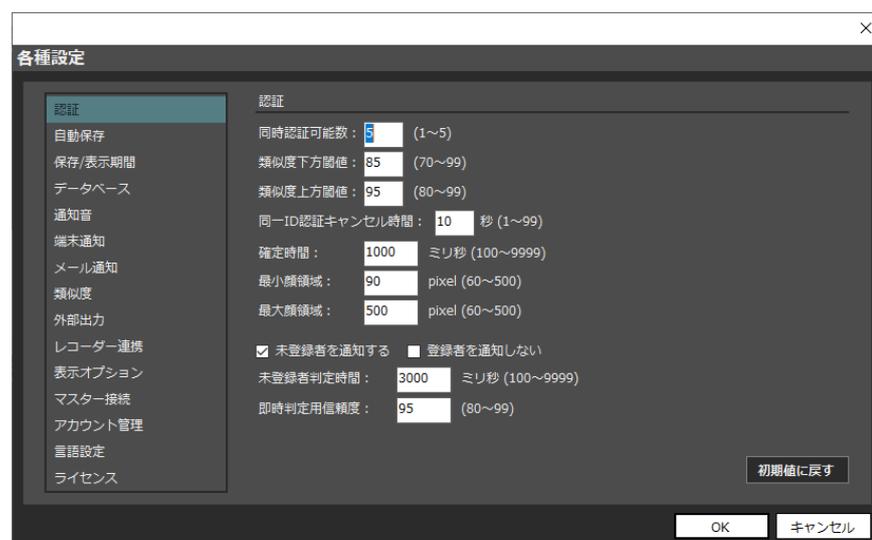
Face Tracker の全般的な設定は”各種設定”にて行います。

設定を行うには、トップメニューバーから“各種設定”を選択します。

16.1 認証の設定

顔認証についての設定値の変更は、“認証”を開きます。

“認証”画面の設定値を初期値に戻したい場合、[初期値に戻す]を押下し[OK]ボタンで完了します。



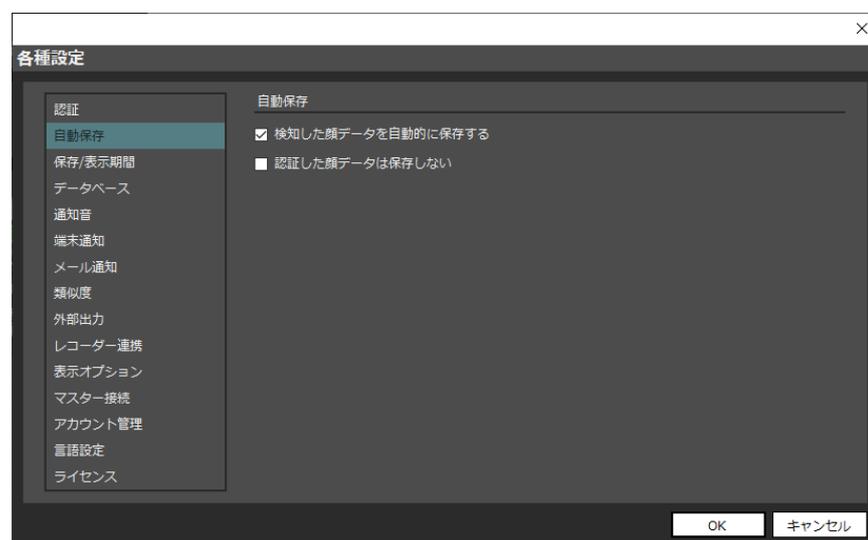
各設定項目の内容は以下の通りです。

設定項目	内容
同時認証可能数	1台のカメラ画像内で同時に検知・認証できる顔の最大数を設定します。 初期値は「5」です。
類似度下方閾値	認証仮確定にするための類似度の閾値を設定します。 初期値は「85」です。
類似度上方閾値	認証確定にするための類似度の閾値を設定します。 初期値は「95」です。
同一 ID 認証キャンセル時間	同一人物の認証を通知しない時間を設定します。 初期値は「10」です。
確定時間	仮確定から確定するまでの最大時間を設定します。 初期値は「1000」です。
最小顔領域	顔を検出する際に必要な最小の顔のサイズを設定します。 初期値は「90」です。
最大顔領域	顔を検出する際に必要な最大の顔のサイズを設定します。 初期値は「500」です。
未登録者を通知する	有効にした場合、未登録者の検知を通知します。 初期値は「オフ」です。
登録者を通知しない	有効にした場合、登録者の検知を通知しません。 初期値は「オフ」です。
未登録者判定時間	顔を検知してから未登録者と判定するまでの時間を設定します。 初期値は「3000」です。
即時判定用信頼度	未登録者と判定する信頼度の閾値を設定します。 検知した顔の信頼度がこの閾値以上の状態で登録データと一致しない場合は未登録者として判定されます。 初期値は「95」です。

16.2 自動保存の設定

認証結果データの保存についての設定値の変更は、“自動保存”画面にて行います。

初期設定では、Face Tracker で検知した全ての顔データは、設定した保存フォルダに保存するように設定されています。保存先のフォルダを変更するには、「0. 16.4 データベースの設定」をご参照ください。

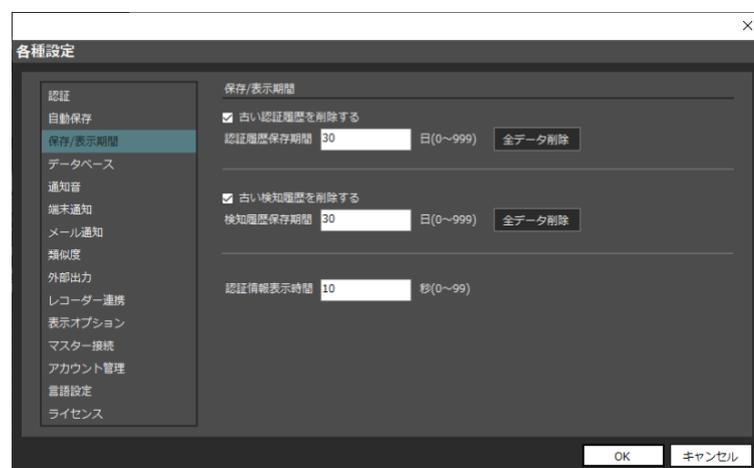


各設定項目の内容は以下の通りです。

設定項目	内容
検知した顔データは自動的に保存する	有効にした場合、検知した全ての顔データを保存します。 初期値は「有効」です。
認証した顔データは保存しない	有効にした場合、認証成功した顔データは検知履歴に保存されません。 初期値は「オフ」です。

16.3 保存/表示期間の設定

データの保存期間や認証情報の表示時間についての設定は、“各種設定” から“保存/表示期間”を開きます。



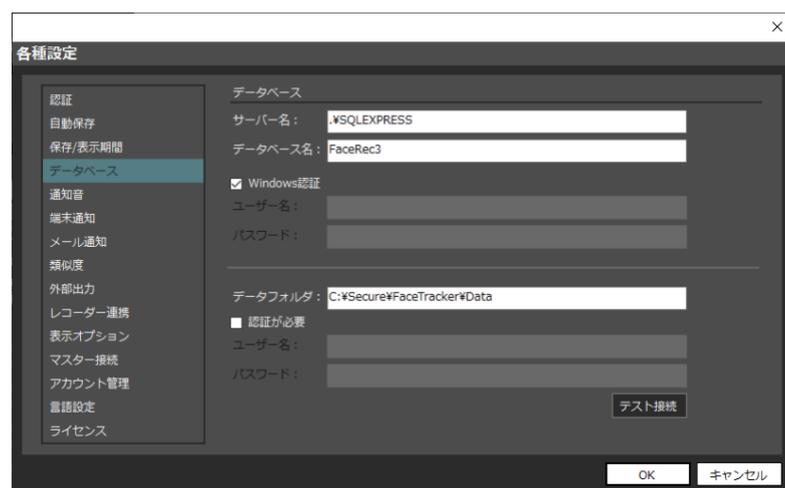
各設定項目の内容は以下の通りです。

設定項目	内容
古い認証履歴を削除する	有効にした場合、Face Tracker にて保存した、認証した顔データを指定した期間に達した際、古いデータは自動で削除されます。 初期値は「有効」です。
認証履歴保存期間	認証した顔データを保存する期間を設定します。0 に設定した場合、当日分の履歴以外は削除されます。 初期値は「30」です。
古い検知履歴を削除する	有効にした場合、Face Tracker で保存された検知した顔データは、指定した期間に達した際、自動で削除されます。 初期値は「有効」です。
検知履歴保存期間	検知した顔データを保存する期間を設定します。0 に設定すると当日分の履歴以外は削除されます。 初期値は「30」です。
認証情報表示時間	認証・検知した際のカメラ画像下に認証結果を表示する時間を設定します。 初期値は「10」です。
全データ削除	認証履歴、又は検知履歴を全て削除することが可能です。

16.4 データベースの設定

使用するデータベース、及びデータフォルダについての設定値の変更は、“各種設定”から“データベース”を開きます。

注：“データベース”画面の設定は通常変更しないようご注意ください。



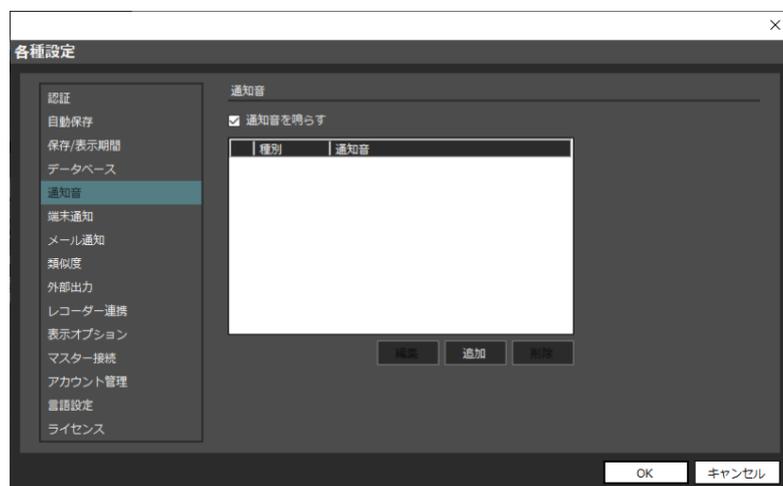
各設定項目の内容は以下の通りです。

設定項目	内容
サーバー名	使用するデータベースサーバー名を設定します。
データベース名	使用するデータベース名を設定します。
ユーザー名	データベースにベーシック認証にて接続する場合は設定を行います。 データベースに登録されているユーザー名を設定します。
パスワード	データベースにベーシック認証にて接続する場合は設定を行います。 データベースに登録されているユーザーのパスワードを設定します。
データフォルダ	認証、及び検知した顔データを保存する場所を設定します。
認証が必要	保存先が NAS や共有フォルダ等、認証が必要な場合は有効に設定します。
ユーザー名	保存先のフォルダにアクセスするためのユーザー名を設定します。
パスワード	保存先のフォルダにアクセスするためのユーザーのパスワードを設定します。
テスト接続	データベース、及びデータフォルダに対してテスト接続を行います。 接続に失敗した場合は、設定を再度確認します。

16.5 通知音の設定

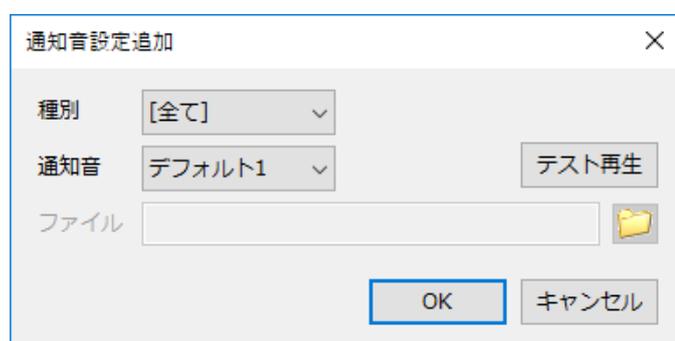
通知音についての設定値の変更は、“各種設定”にて“通知音”を開きます。

通知音を使用するには、“通知音を鳴らす”を有効にします。



[追加]ボタンを押下します。または既に設定済みの項目を選択し[編集]ボタンを押下します。

以下の“通知音設定追加”画面が表示されます。



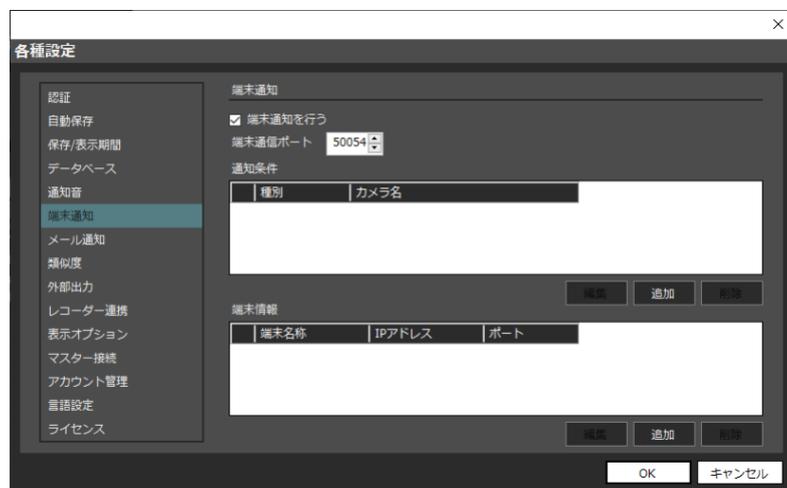
各設定項目の内容は以下の通りです。

設定項目	内容
種別	認証時に通知したい種別を設定します。
通知音	デフォルト 1~5、またはファイル選択から任意の通知音を設定します。
ファイル	ファイル選択から通知音を設定する場合は、任意の音源を選択し設定します。 注：対応フォーマットは wav 形式のみとなります。
テスト再生	設定した音源が Face Tracker にて再生できることを確認します。

16.6 端末通知の設定

端末への通知設定は、“各種設定”にて“端末通知”を開きます。

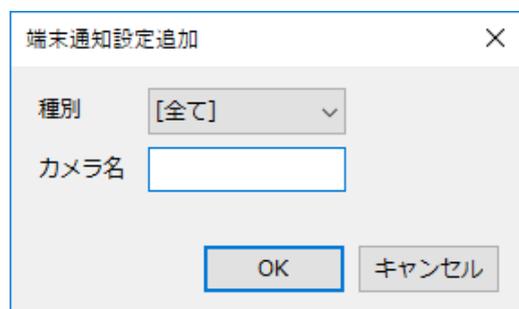
端末通知を使用するには、“端末通知を行う”を「有効」にします。



通知条件の [編集] または [追加] ボタンを押下します。以下の“端末通知設定追加”画面が表示されます。

注：端末通信ポートは通常変更しないでください。

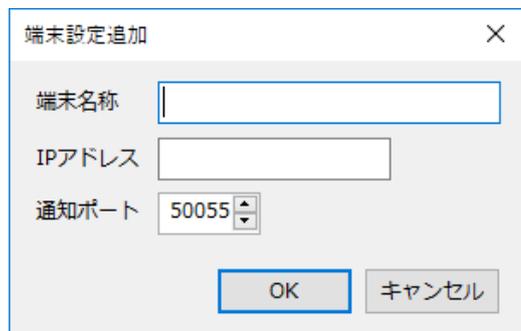
初期値は「50054」です。



各設定項目の内容は以下の通りです。

設定項目	内容
種別	通知を受け取りたい種別を設定します。
カメラ名	通知を受け取りたいカメラ名を設定します。 空欄にした場合は全てのカメラが対象となります。

端末情報の[編集]または[追加]ボタンを押下します。以下の “端末設定追加” 画面が表示されます。
端末情報の設定にて、通知を受け取りたい端末機の設定を行います。



端末設定追加

端末名称

IPアドレス

通知ポート 50055

OK キャンセル

各設定項目の内容は以下の通りです。

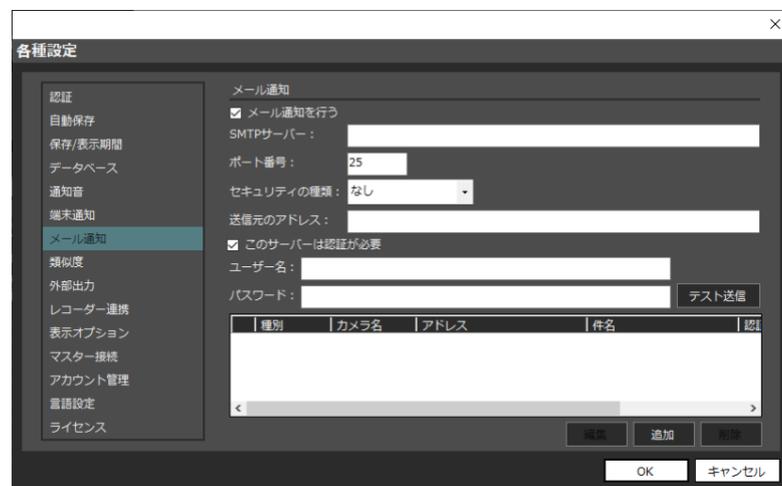
設定項目	内容
端末名称	任意の端末名称を設定します。
IP アドレス	通知を行いたい端末の IP アドレスを設定します。
通知ポート	端末アプリケーションで設定されている通信ポートを設定します。 初期値は「50055」です。 注：通常変更しないでください。

※ 端末側のアプリケーションの使用方法は、別紙「Face Tracker Terminal ユーザーガイド」をご参照ください。

16.7 メール通知の設定

メール通知を使用するには、“各種設定” から“メール通知” を開きます。

メール通知を受け取る場合、“メール通知を行う” を有効にします。



各設定項目の内容は以下の通りです。

設定項目	内容
SMTP サーバー	使用するメールの SMTP サーバーのアドレスを設定します。
ポート番号	SMTP サーバーで使用するポート番号を設定します。
セキュリティの種類	SMTP サーバーで使用するセキュリティの種類を設定します。 コンボボックスの中から適切なセキュリティの種類を設定します。
送信元のアドレス	メール通知にて使用する送信元となるメールアドレスを設定します。
このサーバーは認証が必要	SMTP にてメールを送信する際に、認証情報が必要な場合は「有効」に設定します。
ユーザー名	認証を行うユーザー名を設定します。
パスワード	認証を行うユーザーのパスワードを設定します。
テスト送信	メールをテスト送信することができます。 テスト送信に失敗した場合、再度設定を確認します。

設定例 (yahoo メールを使用する場合)

SMTP サーバー： smtp.mail.yahoo.co.jp

ポート番号： 25

セキュリティの種類： なし

送信元のアドレス： yahoo メールアドレス

このサーバーは認証が必要： チェック有り

ユーザー名： yahoo のアカウント名

パスワード： yahoo ログイン時のパスワード

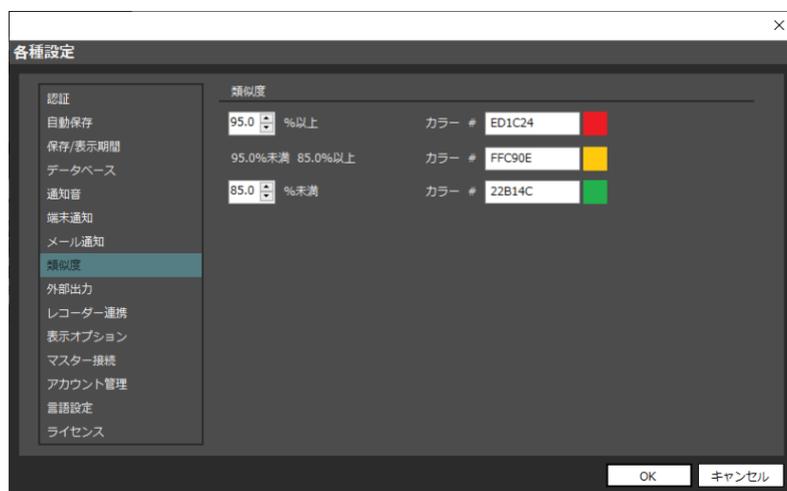
[追加]ボタンを押下します。以下の“メール通知設定追加”画面が表示されます。

各設定項目の内容は以下の通りです。

設定項目	内容
種別	認証時に通知を受け取りたい種別を設定します。 全てが選択されている場合、全ての検知情報が通知されます。
カメラ名	通知を受け取りたいカメラ名を設定します。 空欄の場合、全てのカメラでの認証情報が通知されます。
宛先	通知を受け取るための宛先のアドレスを設定します。
件名	メールのタイトルを設定します。
認証画像を添付する	有効の場合、認証画像を添付します。
比較画像を添付する	有効の場合、比較画像を添付します。
全体画像を添付する	有効の場合、全体画像を添付します。

16.8 類似度アイコンの設定

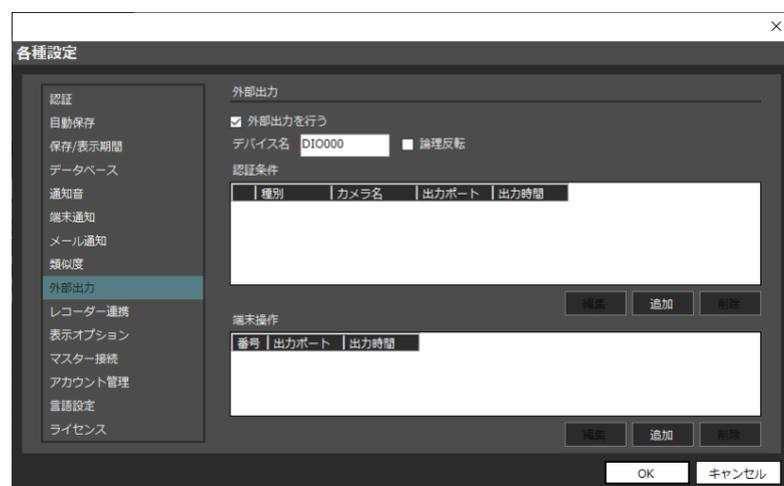
認証履歴表示に類似アイコンのカラーを変更するには、“各種設定” から“類似度”を選択します。



テキストボックスにてカラーコードを入力、テキストボックスの右側からカラーをクリックから、表示されたダイアログにてカラーを選択し設定が可能です。

16.9 外部出力の設定

外部出力を使用するには、“各種設定” から“外部出力”を開きます。



デバイス名の欄には、別紙「APIUSBP.chm」の「デバイスドライバのインストール」－「Windows 10, 8.1」－「デバイス名の確認と変更」を参照し正しいデバイス名を設定します。

論理反転を「有効」した場合、論理が反転して出力されます。“認証条件”の設定では、種別とカメラ名を指定し、指定した条件にて認証を行った場合の外部出力の設定が可能です。

認証条件の[追加]ボタンを押下、または既に設定済みの項目を選択し[編集]ボタンを押下します。
以下の”接点出力設定追加”画面が表示されます。

各設定項目の内容は以下の通りです。

設定項目	内容
種別	認証した際に外部出力を行いたい種別を設定します。
カメラ名	特定のカメラで認証した時のみ外部出力を行いたい場合、カメラ名を設定します。 ※カメラ名に何も入力しない場合は、全てのカメラが対象となります。
出力ポート	外部出力通知をしたいポートを設定します。
出力時間	外部出力通知をしたい時間を設定します。

“端末操作”の設定では、端末にて [出力 1~3] ボタンが操作された場合の外部出力の設定が可能です。
詳しくは別紙「Face Tracker Terminal ユーザーガイド」を参照ください。



16.10 レコーダー連携の設定

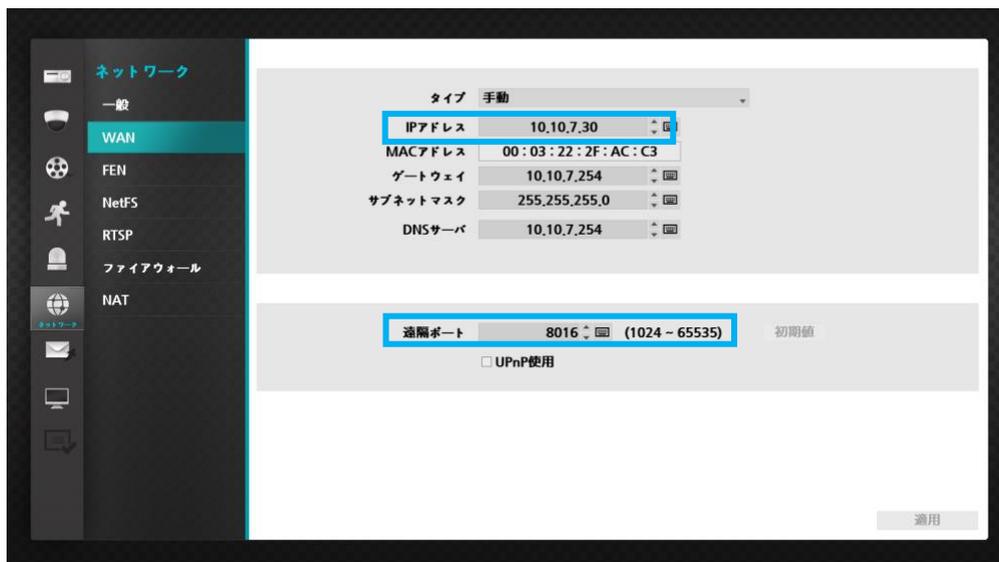
レコーダー連携を使用するには、“各種設定” から“レコーダー連携” を開きます。

“レコーダー連携機能を「有効」にします。

各設定項目の内容は以下の通りです。

設定項目	内容
IP アドレス	レコーダーの IP アドレスを設定します。
通信ポート	レコーダーの WAN 遠隔ポートに設定されているポート番号を設定します。 ※初期値は「8016」となっております。
ユーザーID	レコーダーのユーザーID を設定します。
パスワード	レコーダーのユーザーID のパスワードを設定します。
テスト接続	レコーダーとの接続をテストします。 テスト接続に失敗した場合、設定を再度確認します。
再生位置	起点の日時からの前後の再生位置を設定します。 ※どちらも 0 に設定した場合、自動再生は実行されません。

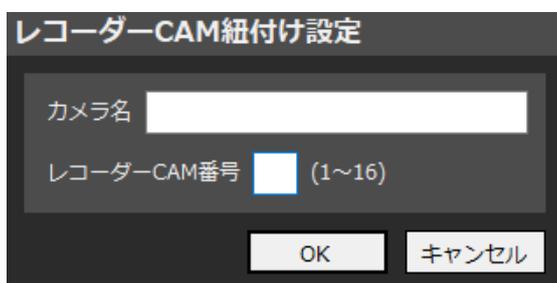
レコーダーの設定については以下をご参照ください。



※レコーダー再生画面については「0 再生画面を操作する」をご参照ください。

次に、カメラ名とレコーダーのCAM 番号の紐付け設定を行います。

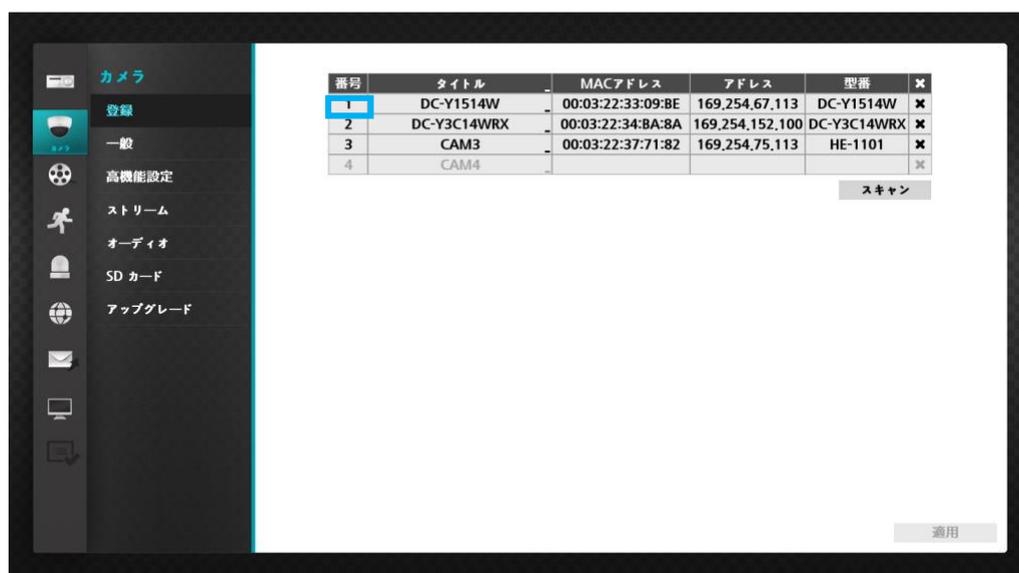
[追加]ボタンを押下します。以下の“レコーダーCAN 紐付け設定”画面が表示されます。



カメラ名には Face Tracker にて設定したカメラ名を指定します。

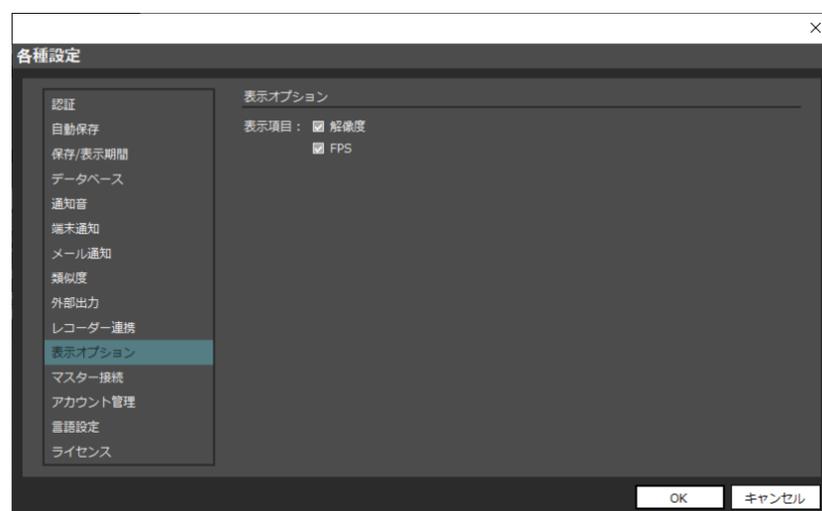
レコーダーCAM 番号には、それに紐付くレコーダーのカメラ番号を指定します。

カメラ名とレコーダーCAM 番号については下記画像をご参照ください。
正しく適用された場合、設定画面のリストに追加されます。



16.11 カメラ表示の設定

解像度、及びFPS等のカメラ画像上の表示を使うには、“各種設定”から“表示オプション”が表示されます。設定値の変更は以下の“表示オプション”画面が表示されます。



各項目の内容は以下の通りです。

設定項目	内容
解像度	有効にした場合、映像上に解像度を表示します。
FPS	有効にしたフレームレートを表示します。

16.12 マスター接続の設定

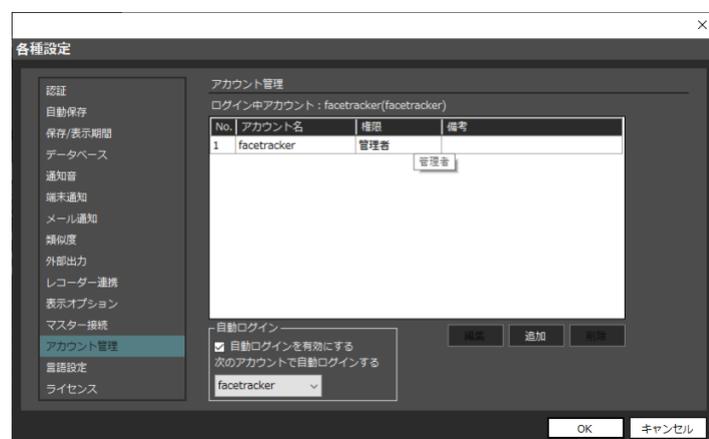
集中管理アプリケーションを使用したい場合、“各種設定”から“マスター接続”を開きます。

集中管理アプリケーション(Master)との接続方法、及び使い方は、別紙「Face Tracker Master ユーザーガイド」をご参照ください。

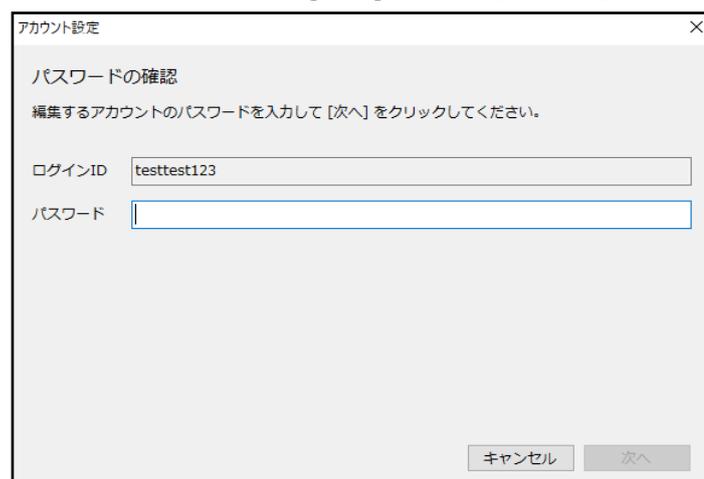
※マスター連携機能を使用しない場合は、“マスターと接続する”のチェックをオフにしてご利用ください。

16.13 アカウントの設定

アカウントの設定を変更するには、“各種設定” から“アカウント管理” を開きます。



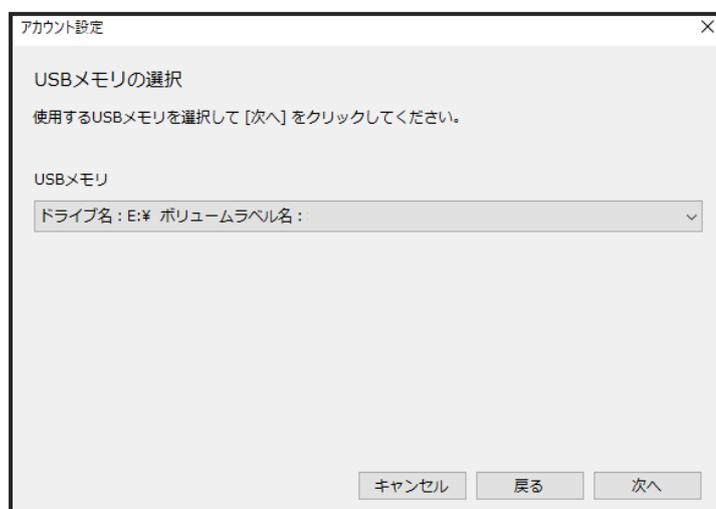
アカウントの編集を行うためには、[編集] ボタンを押下します。以下のパスワード確認画面が開きます。パスワードを入力し、[次へ] ボタンを押下します。



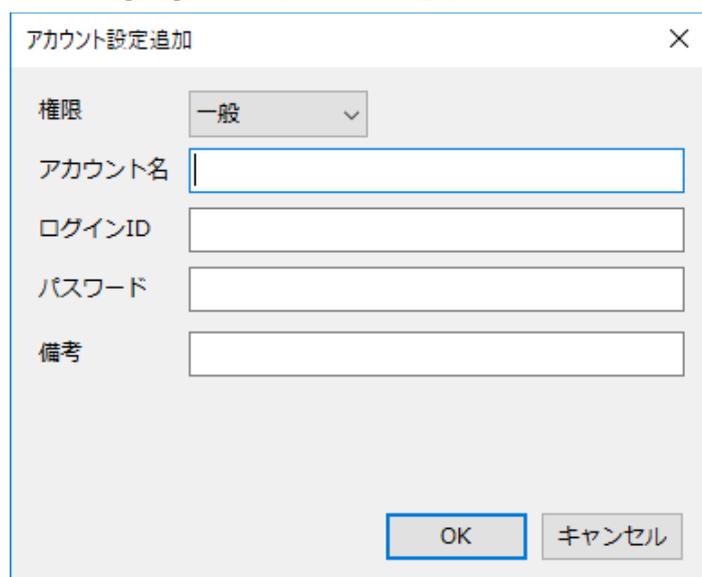
以下の“アカウント設定” 画面にて編集したい項目を編集し、[OK] ボタンを押下し完了します。



アカウントの追加を行うには、“各種設定” から“アカウント管理”を開きます。[追加]ボタンを押下します。以下の USB メモリの選択画面が表示されます。USB メモリを選択し[次へ]ボタンを押下します。



以下の“アカウント設定追加”画面が開きます。権限を選択し、アカウント名、ログインID、パスワードを入力し、[OK]ボタンを押下し設定を完了します。



各設定項目の内容は以下の通りです。

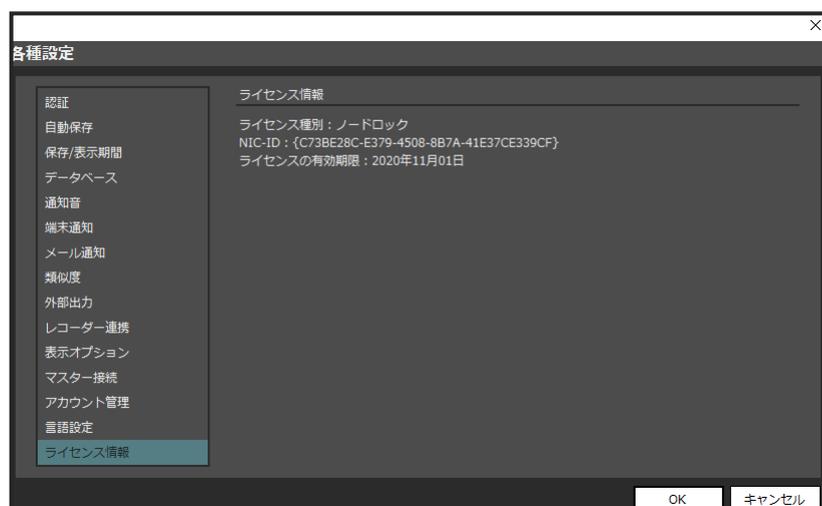
設定項目	内容
権限	アカウントの種類を設定します。 プルダウンメニューから、“一般または“管理者”から選択します。 各権限の違いについては、「0.14 アカウント権限について」をご参照ください。
アカウント名	ログイン中のアカウントとして表示されるアカウント名を設定します。
ログイン ID	Face Tracker のログイン時に使用する ID を設定します。
パスワード	Face Tracker のログイン時に使用するパスワードを設定します。

また、“自動ログイン”のチェックを有効にし、プルダウンメニューから、自動ログインを行うアカウントを選択します。次回以降の起動時にログイン操作を行わずに Face Tracker は開きます。

16.4 ライセンス情報

Face Tracker を使用するためには、ライセンスが必要です。ご利用の PC 用のライセンスを確認するには、“各種設定” から“ライセンス情報”を開きます。

“ライセンスの有効期限”にて、ライセンスの有効期限を確認することが可能です。



16.5 バージョン情報

トップメニューバーから“バージョン情報”を選択します。

バージョン情報画面にてお使いの Face Tracker のバージョンをご確認できます。



Face Tracker ユーザーガイド

2020年3月

株式会社セキュア

Copyright © 2017 SECURE, INC.